

いわて未来づくり機構 令和5年度総会及び第1回ラウンドテーブル

日時 令和5年6月26日(月) 15:00~17:10

会場 サンセール盛岡 1階ダイヤモンド

15:00~15:10 総会

- 1 開 会
- 2 共同代表挨拶
- 3 議 事
議案第1号 令和4年度活動実績(案)について
議案第2号 令和5年度活動計画(案)について
- 4 その他
- 5 閉 会

15:20~17:10 ラウンドテーブル

- 1 開 会
- 2 講 演
「ウェルビーイングな企業や地域とは データが明かす幸せで生産的な集団の姿」
講師：株式会社日立製作所 フェロー 矢野 和男 氏
～ 休憩(10分) ～
- 3 ディスカッション
 - ① 地域や企業、団体におけるウェルビーイングに関する現状認識や課題
 - ② 地域や企業、団体におけるウェルビーイングの向上に向けた今後の取組や展望
- 4 第4フェーズの目標実現に向けた行動宣言について
- 5 閉 会

出席者

【講師等】 株式会社日立製作所 フェロー 矢野 和男 氏
株式会社ハピネスプラネット CSO 田上 舜 氏

【ラウンドテーブルメンバー】

氏 名	所 属 ・ 職 名
谷村 邦久	岩手県商工会議所連合会会長、みちのくコカ・コーラボトリング株式会社代表取締役会長
田口 幸雄 (欠席)	一般社団法人岩手経済同友会代表幹事
米谷 春夫	大船渡商工会議所会頭、株式会社マイヤ代表取締役会長
小川 智	岩手大学学長
鈴木 厚人	岩手県立大学学長
達増 拓也	岩手県知事

【企画委員】

氏 名	所 属 ・ 職 名
宮野 孝志 (委員長)	岩手県立大学副学長(総務)兼事務局長
菊池 透	岩手県商工会議所連合会専務理事
菊地 文彦 (欠席)	株式会社岩手銀行取締役常務執行役員総合企画部長
小原 透 (代理出席)	株式会社岩手銀行執行役員総合企画部長
藤代 博之	岩手大学理事(総務・戦略企画担当)兼副学長
小野 博	岩手県政策企画部長

【作業部会座長】

作業部会	氏名	所属・職名
医療福祉連携作業部会	小川 晃子	岩手県立大学名誉教授・岩手県プラチナ社会推進コーディネーター
かけ橋作業部会	森 昌弘	岩手県ふるさと振興部県北・沿岸振興室沿岸振興課長
復興教育作業部会	本山 敬祐 (欠席)	岩手大学教育学部教授
いわて復興未来塾作業部会	大畑 光宏	岩手県復興防災部副部長兼復興危機管理室長
イノベーション推進作業部会	藤原 由喜江	岩手県ふるさと振興部科学・情報政策室長
子育て支援作業部会	庄司 知恵子	岩手県立大学社会福祉学部准教授
地域公共交通作業部会	宇佐美 誠史 (欠席)	岩手県立大学総合政策学部准教授
分野間連携による農林水産業復興作業部会	水野 雅裕	岩手大大学理事（研究・地域連携担当）・副学長

議案第 1 号

令和 4 年度活動実績（案）について

いわて未来づくり機構 会則第 7 の 3 （ 2 ） により、令和 4 年度活動実績について、次のとおり承認を求める。

令和 5 年 6 月 26 日

いわて未来づくり機構 令和4年度 実績報告

資料1

1 総会・ラウンドテーブルの開催

	内 容
■ 第1回ラウンドテーブル 開催日：R4.4.22(金) 場所：WEB開催	・講演「SARS-CoV-2とともに暮らす世界に向けて」 (講師：岩手県新型コロナウイルス感染症対策専門委員会委員長 櫻井 滋 氏) ・共同メッセージ「基本的な感染対策の徹底でオミクロン株の感染拡大を抑え県民の社会経済活動を守るための緊急メッセージ」の発表
■ 総会 開催日：R4.6.10(金) 場所：リリオ	・令和3年度実績の報告及び令和4年度活動計画の承認
■ 第2回ラウンドテーブル 開催日・場所：同上	・「分野間連携による農林水産業振興作業部会」の設置 ・講演「アフターコロナの岩手県の可能性」 (講師：みずほリサーチ&テクノロジーズ 調査部 経済調査チーム 上席主任研究員 岡田 豊 氏) ・ディスカッション①「アフターコロナの社会変化と課題」 ディスカッション②「アフターコロナに向けた将来ビジョン」
■ 第3回ラウンドテーブル 開催日：R4.11.7(月) 場所：リリオ	・作業部会からの活動報告及びディスカッション ・第3フェーズの検証及び第4フェーズの目標設定について
■ 第4回ラウンドテーブル 開催日：R5.2.10(金) 場所：アートホテル盛岡	・講演「地域の中核大学SRU -Super Regional University- を目指して ～地域を支え、地域を変えることができる大学へ～」 (講師：高知大学 理事 受田 浩之 氏) ・ディスカッション①「本県における今後の産学官連携のあり方」 ディスカッション②「県内高等教育機関の将来像」 ・第4フェーズの目標について ・今こそ「買うなら岩手のもの」宣言の発表

2 「北上川バレープロジェクト」アドバイザーボード

	内 容
■シンポジウム・セミナー等での講演	岩手県立大学の学生向け講演 ①開催日：令和4年11月21日(月) ②場所：岩手県立大学 共通講義棟 ③内容：「より良い地域社会 ― Society5.0の実現」 講師：(株)三菱総合研究所 スマートリージョン本部 国土・地域政策グループ 主席研究員 白戸智氏
	令和4年度第2回岩手県人工知能ビジネス研究会 ①開催日：令和5年1月31日(火) ※オンライン開催 ②内容：「AI利活用におけるデータ収集、モデル構築、価値創出 ～ DataOps, ModelOps, DesignOps,人と共進化するAI技術～」 講師：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター首席研究員／ 人工知能技術コンソーシアム会長 本村陽一氏
	令和4年度I-SEP半導体業界動向セミナー ①開催日：令和5年2月7日(火) ②場所：ブランニューキタカミ(オンライン参加可) ③内容：「世界の半導体戦略動向とSDGs・カーボンニュートラルに貢献する省エネ半導体」 講師：東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター センター長 遠藤哲郎氏
■展開研究会 (県とバレーエリア の16市町で構成) への情報提供等	展開研究会 ①開催日：【第1回】令和4年9月13日(火) 【第2回】令和4年2月13日(月) ※どちらもオンライン開催 ②内容：情報共有(構成市町の取組紹介) (株)三菱総合研究所 スマートリージョン本部 国土・地域政策グループ 主席研究員 白戸智氏による、第4次産業革命技術導入の観点からの助言)

■上記のほか、プロジェクトの推進に係る助言

3 県民運動及び作業部会

県民運動	部会名【担当機関】	主な活動
ILCなど科学技術の進展への対応	イノベーション推進【県】	<ul style="list-style-type: none"> ・「ドローン物流に係る先進事例と制度動向」をテーマとした研究会を開催 ・買物困難者などに対する日用品の配送などを目的とした実証実験を実施
	かけ橋【県】	<ul style="list-style-type: none"> ・物資提供・寄付、新商品開発や企業支援等の復興支援マッチングを実施(10件成立) ・公式ホームページやSNS等により、被災地の様々な復興関連情報を発信
	復興教育【岩手大】	<ul style="list-style-type: none"> ・「『いわての師匠』派遣事業」による講師派遣を実施(24件) ・学校への周知の早期化や、事業案内リーフレットを改善など、講師派遣件数の増を図るための取組を実施
復興と新たな社会基盤等の活用	いわて復興未来塾【県】	<ul style="list-style-type: none"> ・復興や地域づくりの担い手の育成と人材のネットワークづくりを推進する「いわて復興未来塾」を開催 ・復興現場や震災伝承施設の見学を実施
	医療福祉連携【県立大】	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会づくりにおけるアクティブシニアの活用と高齢者生活支援 ・県営住宅・災害公営住宅等におけるICT活用見守り ・AIスピーカーを活用した服薬支援見守りの社会実験を実施
	子育て支援【県立大】	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランスに関するシンポジウムの開催 ・子育てに関する調査・分析
人口減少下における地域の活力維持	地域公共交通【県立大】	<ul style="list-style-type: none"> ・滝沢市のタクシー活用実験で乗降データの取得、可視化 ・バス運行情報を伝える電子ペーパーのシステム構築
	分野間連携による農林水産業振興【岩手大】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域未来ビジョンの骨子の策定 ・地域未来ビジョン達成のためのターゲットを設定

4 その他

活動の企画・調整を担う組織として、企画委員会を3回開催。

議案第 2 号

令和 4 年度活動計画（案）について

いわて未来づくり機構 会則第 7 の 3 （1）により、令和 5 年度活動計画（案）について、次のとおり承認を求める。

令和 5 年 6 月 26 日

いわて未来づくり機構 令和5年度活動計画(案)

目標

【第4フェーズ目標(2023年度(令和5年度)～2027年度(令和9年度))】

デジタル化やカーボンニュートラルを推進し、持続可能で人口減少に負けない岩手を実現
～お互いに幸福を守り、育てるために～

県民運動

ILCなど科学技術の
進展への対応

復興の推進と、災害などに強く
持続可能で魅力ある地域づくり

安心して生み育て、誰もが
活躍できる社会の実現

作業部会

部会名	イノベーション推進	かけ橋	復興教育	いわて復興未来塾	医療福祉連携	子育て支援	地域公共交通	分野間連携による農林水産業振興
活動方針	岩手県科学技術イノベーション指針に基づく岩手型イノベーションの推進	復興支援プロジェクト「いわて三陸復興のかけ橋」の推進	いわての復興教育プログラムの推進支援	復興や地域づくりの担い手の育成及び人材のネットワークづくり	地域包括ケアにおける情報通信技術(AIoT)と社会技術の融合	仕事と子育ての両立のための支援体制整備の推進	地域の公共交通のサステイナブル化の推進	分野間連携による地域の持続可能な農林水産業の振興
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆ドローン物流の社会実装に向けた実証実験の実施 ◆県内研究機関のオリジナル技術の社会実装支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆復興支援マッチングの推進 ◆復興関連情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ◆復興教育の講師を派遣する「いわての師匠」派遣事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆いわて復興未来塾の開催(2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆感染予防対策が必要な時代における高齢者の孤立防止のためのICT活用策の実験・実装 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子育て支援環境が整った企業でのインターンシップの実施 ◆ワーク・ライフ・バランスに関するシンポジウムの開催 ◆子育てに関する調査・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ◆公共交通の運行実態及び利用実態の調査・分析 ◆自治体の公共交通に係る政策提言や実証実験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域未来ビジョンの骨子案の策定 ◆地域未来ビジョンの達成のためのターゲットや研究開発課題の設定 ◆拠点構築に向けた取組み

情報発信

活動をより効果的に展開していくため、積極的に情報発信を行う。

- ① 会員団体の総会等を利用した団体構成員等に対する機構の取組内容の周知
- ② 電子メール等を利用した会員向け情報提供（随時）
- ③ 機構ホームページからの一般向け情報発信
- ④ 県民の理解増進を図るため、マスコミへの情報提供の強化

アドバイザー
ボード

北上川バレープロジェクトの推進に向けた意見、提言をいただき、県と連携してプロジェクトを推進

- ① 産業分野・生活分野への第4次産業革命技術の導入の促進に向けた助言
- ② 高度技術人材の育成に向けた助言

スケジュール

主要行事	概要
総会 期日:6/26(月) 会場:サンセール盛岡 議長:(岩大)小川共同代表 進行:(県立大)宮野企画委員長	・令和4年度実績の報告 ・令和5年度活動計画の審議
第1回ラウンドテーブル 期日及び会場:同上 進行:(県)小野企画委員	・講演「ウェルビーイングな企業や地域とは データが明かす幸せで生産的な集団の姿」 (講師:日立製作所 フェロー 矢野和男 氏) ・ディスカッション①「地域や企業、団体におけるウェルビーイングに関する現状認識や課題」 ②「地域や企業、団体におけるウェルビーイングの向上に向けた今後の取組や展望」 ・第4フェーズの目標実現に向けた行動宣言
第2回ラウンドテーブル 時期:11/17(金) 会場:盛岡市内 進行:(商議連)菊池企画委員	・作業部会の活動報告 ・ディスカッション（その時点における重要課題に応じテーマを決定）
第3回ラウンドテーブル 時期:2/2(金) 会場:盛岡市内 進行:(県立大)宮野企画委員	・講演及びディスカッション (その時点における重要課題に応じテーマを決定)

■演題：ウェルビーイングな企業や地域とは データが明かす幸せで生産的な集団の姿

■骨子：

地域の幸せの総量を増やす

幸せについては、ここ四半世紀大量のデータと知見が蓄積されてきた。その中で、私たちは、テクノロジーを使って人や集団をいかに幸せ/ウェルビーイングにできるかを研究してきた。

その中でも最も重要な知見をお伝えしたい。多くの人は、仕事があまくいくと幸せになる、健康なら幸せになれる、結婚して子どもが出来たら幸せになれる、という考え方をしている。

意外なことに、このような因果関係は弱く、むしろ逆が強いのだ。幸せだと仕事があまくいき、幸せだと病気になりにくく、病気になっても早く直り、幸せだと結婚し子どもがしやすいのである。

さらに、私たちは、なにが幸せに効いているかを研究してきた。その結果、幸せで生産的な集団とそうでない集団とを分かつ要因を、「ファクターX」を発見した。

この30年、メンタル不調や将来への不安感が増え、不幸せで後ろ向きな社会になっている。集団に、このファクターXが多いかが、集団の幸不幸に強い影響を与える。

このファクターXとは、人と人のネットワークにある。幸せで生産的な集団では人が「三角形」でつながり、そうでない組織では「V字」でつながる。この小さな違いが、大きな影響を与えるのだ。

あなたがよく話をしている2人なのに、その2人同士は話さない関係がV字である。これにより、あなたは落ち込みやすくなる。例えばあなたが、ライン上の上司と、参加しているプロジェクトのリーダーと話をする立場とする。ところが、この二人が互いに話をしないと、あなたは落ち込みやすくなる。

別の例では、私が娘と会話せず、常に妻を経由して娘の話をする状況では、娘に課題が起こる度に間に立つ妻が苦勞する。我々の悩みの多くはこのV字に起因しているのである。

根深いことに、実は役割分担を明確するために、縦割りに考えると、つながりをV字型にしがちである。会社でも役所でも、組織図にはV字型しかない。地域全体を見ても、法人が縦割りになっていて、その間につながりがないと、地域全体では三角形の構造が少なくなる。

このように、縦割りのコミュニケーションをすると「データで証明された不幸で生産的でない集団」になるのだ。

この三角形のつながりとは、仲間であることを確かめ合うものだ。このような行為は霊長類に広く見られ、猿では毛づくろいを通じて行う。この本能は、現代の我々の中にも強く残っている。これがないと我々はいい仕事もできず、集団のよいメンバーにもなれない。

用件のみになりがちな地域に、この生物種としてのつながりを取り戻すために、三角形づくりを通じたフラットな横のつながりを意識的につくる必要がある。

我々は、上記知見に基づきデジタル技術を活用して、組織や地域に三角形をつくるアプリを開発し、既に多様な100社を越える企業や団体に導入されている。これにより「地域の幸せの総量を増やす」ために進み始めている。

講演では、このようなデータと科学的なエビデンスに基づく幸せづくりのお話をする。

ダウンロードサイト(発表時と内容異なる場合がございますが、下記にて提供致します。)

<https://forms.office.com/r/PR3VNq4ueK>

第4フェーズ目標の実現に向けた行動宣言（案）

いわて未来づくり機構では、第3フェーズ（平成30年度～令和4年度）の目標として「科学技術の進展と整備が進む社会基盤を生かした、人口減少に負けない地域づくり」を掲げ、県民運動を展開してまいりました。

しかしながら、依然として人口減少の進行に歯止めがかかっておりません。人口減少対策は、その効果が現れるまでに相当程度の期間を要します。流れを変えるためには、まさに今、行動する必要があります。

このような中、デジタル化の進展や地球温暖化、大規模災害リスクの顕在化等、県を取り巻く社会環境が大きく変化しており、これらにも的確に対応しながら、持続可能で人口減少に負けない岩手を実現していくことが求められます。

こうした状況を踏まえ、先般、いわて未来づくり機構では、次のとおり第4フェーズ（令和5年度～令和9年度）の目標を設定しました。

デジタル化やカーボンニュートラルを推進し、
持続可能で人口減少に負けない岩手を実現
～お互いに幸福を守り、育てるために～

この目標の実現に向けて、私たちいわて未来づくり機構は、会員がそれぞれの立場や分野において進めてきた取組を一層拡大し、オール岩手の官民協働のネットワークという特色を活かして共に手を携え、次の県民運動に取り組んでいくことを、ここに宣言します。

① I L Cなど科学技術の進展への対応

I L C誘致実現を想定した対応、新技術の導入、技術開発などを推進します。

② 復興の推進と、災害などに強く持続可能で魅力ある地域づくり

復興・発展を支える人材育成、被災地と県内外との交流拡大、地域公共交通のサステナブル化、地域の見守り体制づくり、農林水産業振興などを推進します。

③ 安心して生み育て、誰もが活躍できる社会の実現

仕事と子育ての両立などそれぞれのライフスタイルに応じた支援、性別に関わらず誰もが活躍できる環境づくりなどを推進します。

県民の皆さんも、一人ひとりの明るい未来をつくるために、できることから一緒に行動していきましょう。

令和5年6月26日

いわて未来づくり機構 ラウンドテーブルメンバー

岩手県商工会議所連合会 会長 一般社団法人岩手経済同友会 代表幹事 大船渡商工会議所 会頭

国立大学法人岩手大学 学長 公立大学法人岩手県立大学 学長 岩手県知事

いわて未来づくり機構 作業部会 令和4年度実績報告及び令和5年度活動計画

医療福祉連携作業部会	1 ページ
かけ橋作業部会	13 ページ
復興教育作業部会	17 ページ
いわて復興未来塾作業部会	37 ページ
イノベーション推進作業部会	41 ページ
子育て支援作業部会	42 ページ
地域公共交通作業部会	52 ページ
分野間連携による農林水産業振興作業部会	69 ページ

いわて未来づくり機構医療福祉連携作業部会の実績報告・活動計画

テーマ： 循環型社会づくり・地域包括ケアにおける情報通信技術と社会技術の融合

座長： 小川晃子

担当団体： 岩手県立大学

報告要旨

本作業部会では、医療・福祉が連携した地域包括ケアに資するために、AI・IoTを含む情報通信技術と、地域の見守り体制や高齢者の情報リテラシー向上等の社会技術を融合したモデル開発と実証に取り組んできた。この取り組みは、新型コロナウイルス感染予防が必要な現状で、高齢者の孤立化や虚弱化を防ぐ取り組みに直結するものであった。

令和4年度からはさらに連携の範囲を拡げ、循環型社会におけるアクティブシニアの活用と高齢者生活支援体制づくりの取り組みを開始した。JST共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）の東京大学採択プロジェクトの岩手サテライトとして、盛岡市松園地区でアクティブシニアの力と端野菜を活かし、電力自動車で地域を回り高齢者の買い物支援を行う社会実験を実施した。そこには、既に社会実装しているICTを活用した見守りも組み込んでいる。

平成5年度は岩手県ふるさと振興部県北沿岸振興室と連携し、盛岡市松園地区での取り組みを社会実装に進めるとともに、北いわてにおいてアクティブシニア活用型のプロジェクトに取り組む予定である。また、県営住宅・災害公営住宅における孤立を防ぐための取り組みも進めていく。

1 令和4年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

令和4年6月28日・7月14日・8月4日・9月5日・10月25日・11月14日・11月17日・11月30日・12月3日・12月12日・1月4日・2月27日

盛岡市松園地区における循環型社会づくりについて、福祉事業者である(有)まごのて、及びヤマト・スタッフ・サプライ(株)と連携をし、社会実験を計画・実施へと進める

令和4年5月16日・9月29日

岩手県建築住宅課にICT活用見守りについて説明し、連携を依頼する。

令和4年4月11日・4月13日・8月30日・9月12日・2月17日・2月18日・3月3日

(株)カルティブと連携し、今年度のAIスピーカー活用見守りの体制整備を進める。

令和4年6月23日・7月12日・10月11日・12月1日・11月8日・12月27日

経済産業省・厚生労働省が委託している（社）日本福祉用具・生活支援用具協会における「見守り機器に関する国際標準化委員会」と分科会で委員長として取り組んでいる（2021年度から3年度）

2 令和4年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）	
令和4年度活動計画	令和4年度活動状況・成果・課題
<p>令和4年度は、主として次の4点で取り組んだ。</p> <p>①循環型社会づくりにおけるアクティブシニアの活用と高齢者生活支援</p> <p>②県営住宅・災害公営住宅等におけるICT活用見守り</p> <p>③AIスピーカーを活用した服薬支援見守りの社会実験・実装</p> <p>④ICTを活用した見守り国際標準化への取組み</p>	<p>①盛岡市松園地区において、11月30日と12月3日に社会実験を行った。その状況は、1月19日IBCニュースエコーイワテノクラシで放映された。令和5年度の社会実験に向けて企画も進めた。</p> <p>②岩手県住宅建築課に説明と連携を依頼。令和5年度の松園フィールドの社会実験・実装での連携を目指している。</p> <p>③2月18日にアイーナにおいて開催された「第1回シニア×ICTヘルステックデバイス体験交流会」において展示・説明を行った。</p> <p>④経済産業省・厚生労働省が委託している（社）日本福祉用具・生活支援用具協会における「見守り機器に関する国際標準化委員会」において小川が委員長して取り組んでいる（2021年度から3年度）</p>

3 令和5年度の活動方針・予定
<p>令和5年度は主として次の4点で活動を進める。</p> <p>①循環型社会づくりにおけるアクティブシニアの活用と高齢者生活支援 盛岡市松園地区での社会実装を目標に進めるとともに、岩泉町安家地区や久慈市山形地区等の北いわての取り組みに展開をしていく。</p> <p>②県営住宅・災害公営住宅等におけるICT活用見守り 盛岡市松園の社会実験・社会実装において県営住宅を拠点とした取り組みを進めるとともに、県内の公営住宅における孤立防止を目的とするICT活用見守りでの連携を働きかけていく。</p> <p>③高齢者見守りと生活支援におけるAI/ICT活用について多様な環境・媒体における実装とコンサルティング 岩手県の高齢者安否確認システムである「お元気発信」普及活動や、各地で導入されているAI/ICT活用が社会技術と連携できるようコンサルティングを行う。</p> <p>④ICTを活用した見守り国際標準化への取組み 日本福祉用具・生活支援用具協会における「見守り機器に関する国際標準化委員会」において国際標準化案を検討する。</p>

いわて未来づくり機構 医療福祉連携作業部会の 実績報告・活動計画

循環型社会づくり・地域包括ケアにおける情報通信技術(AI・IoT含
む)と社会技術の融合



2023年 5 月

岩手県立大学 名誉教授

岩手県プラチナ社会推進コーディネーター

一般社団法人高齢者の見守りとコミュニティづくり促進協議会代表理事

小川（坂庭）晃子



令和4年度の取り組み

ICT活用方策の開発・社会実装に継続的に取り組む。

循環型社会づくりにおけるアクティブシニアの活用と高齢者生活支援の社会実験

県営住宅・災害公営住宅におけるICT活用見守り

スピーカーを活用した服薬支援見守りの社会実験・実

装



を活用した見守り標準化への取り組み

北いわてにおける取り組みの評価

年10月『財界』277号13頁
28代東京大学総長小宮山宏氏による紹介記事

年度の第9回プラチナ大賞における「審査員特別賞」受賞の評価

TM手帖



小宮山 宏

北いわてにおけるA・I・I・C・Tを活用した高齢者の能動的見守り

2040年には人口が4割近く減少、高齢化率50%に達するなど県平均を大きく上回る人口減少と高齢化の進展が予想される岩手県の北いわてエリア。中山間地域に居住する高齢者の孤立、買い物や医療、地域交通等生活サービスの利用が困難な状況が発生し、孤立防止や生活支援を行う新たな社会技術の必要性が高い地域だ。

こうした背景を踏まえ、県、市町村、岩手県立大学、アカデミックベンチャー（一社）高齢者の見守りとコミュニケーションづくり促進協議、民間企業、社会福祉協議会等が連携。高度な知見・ノウハウを生かしてA・I・I・C・T等の技術を導入し、住民が安全・安心で豊かな生活を送ることを目指した取り組みを行っている。

具体的には、①A・I・I・C・Tなどを活用した高齢者の安否確認システムの構築②人と人の繋がりを活かした重層

的な見守り体制の構築③A・I・I・C・Tを活用した見守りシステムの検証、である。

岩手町では町内全世帯に電話型IP端末「ぴーちゃんネット」をレンタルし、端末のアンケート機能を活用した「お元気発信」をシステム化。高齢者は1日1回、「げんき」「少し元気」「わるい」のいずれかを選び発信。発信が無ければ、集落支援員などが安否確認を行う。令和3年度から町全域に実装され、これを基盤にA・I・I・C・Tを活用した服薬支援見守りの社会実験も実施している。岩手町では電話をかけるだけで「元気」と記録される「かけるだけお元気発信」により安否確認。みまもりセンターのほか、町外在住の親族にも安否が電子メールで送信される。高齢者が能動的に安否や生活状態を発信できる、主体性を尊重した自立支援により、心身とも社会からの孤立を防ぎ、QOL向上に大きく寄与するこの取り組みは、地球が持続し、豊かで、人の自己実現を可能にする「プラチナ社会」を実現する取り組みの一つだ。この取り組みは、課題解決型の地域づくりを表彰する「第9回プラチナ大賞」において、「審査委員特別賞」を受賞した。

（小宮山宏・三菱総合研究所理事長）

地域電力と電気自動車(客貨混載型)を活用した 高齢農家・アクティブシニア等支援



- ①高齢農家の課題解決(農産物を販売)
- ②在宅高齢者の買い物支援(通所・通院先での購入・移動販売車購入)
- ③アクティブシニアの活動支援
(農作業・袋詰め支援、販売、納品・陳列・回収作業等)
- ④子ども食堂・フードバンク等への食材提供

⇒地域の中で、野菜・アクティブシニアのパワーを循環し、生活の質を高める

盛岡市松園地区での社会実験—2022年度
COI-NEXT「ビヨンド・“ゼロカーボンを目指すCo-JYUNKAN “プ
ラットフォーム」 IBCニュースエコー2023. 1. 19放映



令和5年度の取り組み

循環型社会づくりにおけるアクティブシニアの活用と高齢者生活支援の社会実験・社会実装

県営住宅・災害公営住宅におけるICT活用見守り

高齢者見守りと生活支援におけるAI/ICT活用について多様な環境・媒体における実装とコンサルティング

を活用した見守り国際標準化への取り組み



安家地区における高齢者生活支援の概念図



ぴーちゃんねつと活用届け依頼・見守り

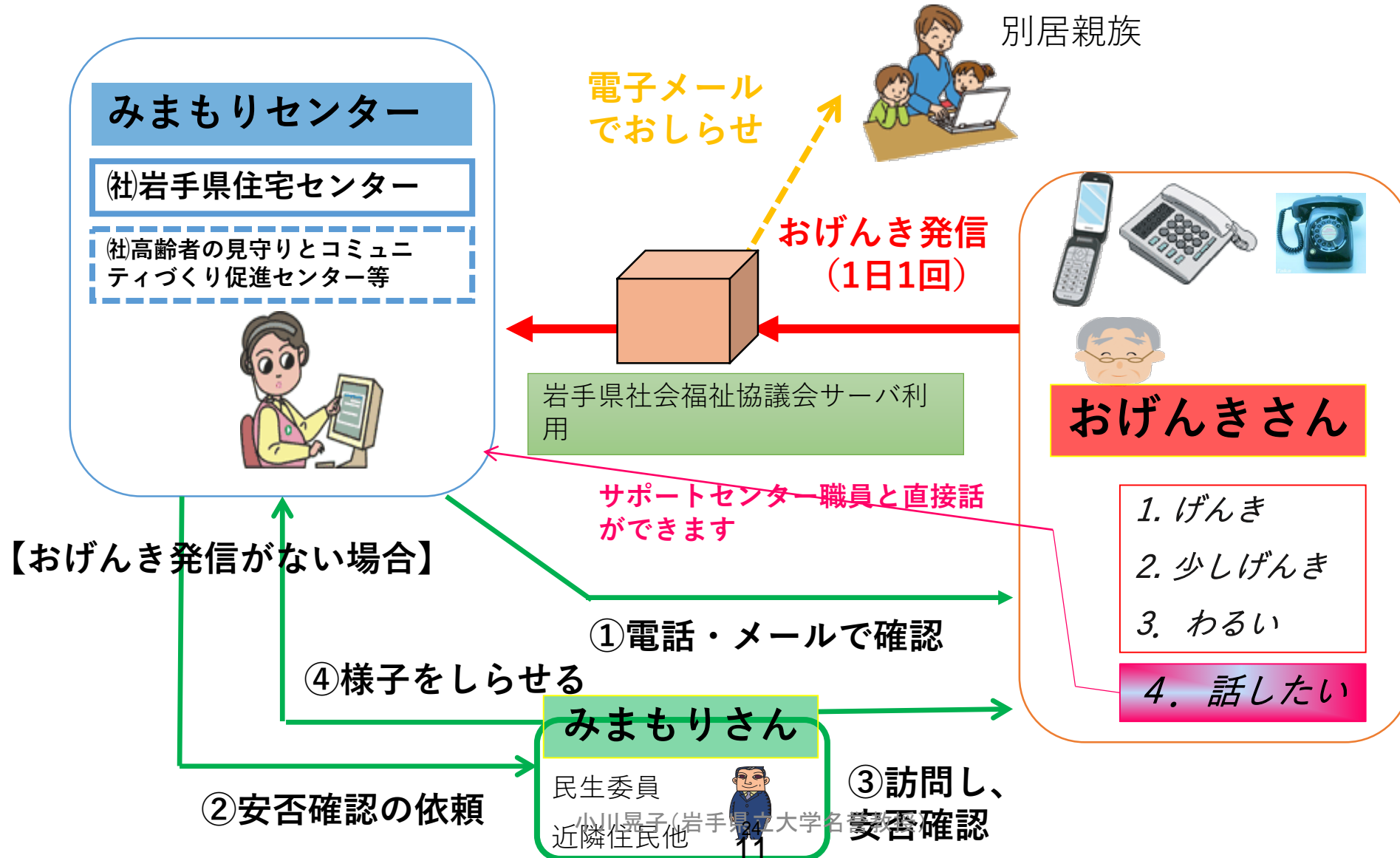


- ① 高齢農家の農産物活用
- ② アクティブシニアの活動支援（加工・販売作業）
- ③ 在宅高齢者の外出支援
- ④ 在宅高齢者の買い物支援
- ⑤ 在宅高齢者の見守り支援（ぴーちゃんねつとお元気発信）
- ⑥ 地域拠点づくり（物流のラストワンマイル用デポ、閉校小学校校舎活用等）
- ⑦ 子ども食堂・生活困窮者等への食材提供

期待される効果

- 安家地区での**アクティブシニアの能動性**を高める
- 今後の安家地区での**コミュニティづくりの進展**へ波及
- 岩泉町の**他地区での生活支援型コミュニティづくり**に波及
- 北いわての**他市町村、岩手県内他市町村での生活支援型コミュニティづくり**に波及
- **スマート物流やICT活用見守りの新たなモデル**として、他地域での取り組みに波及
- **岩泉町でのコミュニティバス等交通政策**への新たな取り組みに波及

県営住宅・災害公営住宅での「お元気発信」利用促進



ご清聴に感謝申し上げます。



いわて未来づくり機構 かけ橋作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：「いわて三陸復興のかけ橋プロジェクト」の推進

座長：森 昌弘

担当機関：岩手県

報告要旨

令和4年度は、従来から実施している物資提供や寄付などのマッチングのほか、企業研修や大学現地ゼミ等での交流拡大につながるマッチング（計10件）を実施した。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行を好機と捉え、これまで構築した関係性の強化に取り組むとともに、新たな視点での新規案件の創出に向けて取り組んでいく。

1. 令和4年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

令和4年9月13日	第19回作業部会開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ かけ橋作業部会の活動状況について ・ 防災学習などを活用した企業・大学等との連携について
令和5年3月16日	第20回作業部会開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度活動実績(案)について ・ 令和5年度活動計画(案)について

2. 令和4年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和4年度事業計画	令和4年度事業実績・成果
(1) 復興支援マッチング 寄付等のマッチングを行うほか、被災地を訪問いただき関係性の強化を図るとともに交流を拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物資提供や寄付に関してマッチングを行ったほか、大学のゼミ活動において被災地訪問の提案や、企業等の研修実施において語り部を講師として紹介するなどしながら関係性の強化、交流の拡大に努めた。 ○ 県ホームページを活用し、令和4年度の主な支援活動を紹介した。 <p>【実績】 復興支援マッチング：10件</p>
(2) 復興関連情報の発信 被災地の復興の進捗状況や様々な活動を「三陸防災復興プロジェクト」公式ホームページ、Twitter、Facebook等により総合的に情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三陸防災復興プロジェクト公式ホームページやSNS等により、被災地の様々な復興関連情報を発信。現地の復興の姿を継続して取材するとともに、食や観光資源など三陸地域の多様な魅力の発信に努めた。 <p>【実績】 ホームページ（アクセス数）：157,898 Twitter（総インプレッション数）：1,269,349 Facebook（総リーチ数）：190,360</p>

事業課題

- 東日本大震災津波からの年月の経過に加え、3年にわたるコロナ禍により新規支援案件の創出が困難になっていたところであるが、新型コロナウイルス感染症の5類への移行を好機と捉え、活動を活発化させていくことが必要。
- 復興の進展に伴い、これまで物資提供や寄付などのマッチングを中心に培ってきた絆を活かした、関係性の強化や交流の拡大に資する新規案件の創出に向けた取組が必要。

3. 今後の活動方針・予定

(1) 復興支援マッチング

- ・ 継続しているマッチング案件については、フォローアップを行い、関係性の継続に努める。
- ・ 物資提供や寄付などのマッチングは、窓口となって支援相談を受け、内容に応じて県関係部局、市町村等と連携しながらニーズに応じたマッチングを行う。
- ・ 沿岸地域に訪れていただくことも支援であるという観点から、沿岸地域をフィールドとする防災学習をテーマとした研修等の提案を実施することで、被災地との関係性の創出・交流の拡大に努める。
- ・ 県外企業等とのマッチングにあたって、関係部局や県外事務所とも連携しながら、企業訪問をしながら関係性の強化を図っていく。

(2) 復興関連情報の発信

- ・ 被災地の復興状況や、三陸地域の魅力を発信するため、「三陸防災復興プロジェクト」の公式ホームページやSNS（Twitter、Facebook、Instagram）で継続した情報発信を行っていく。
- ・ 県公式ホームページ等により、かけ橋事業の復興支援マッチングの状況について発信を行っていく。

令和4年度の主なマッチング事例

【取組事例①】キオクシア岩手株

- 1 東日本大震災復興支援に取り組むキオクシア岩手株式会社とのマッチング調整の結果、被災地の産業支援のため、沿岸地域の商品を中心とした社内物産展を開催。
- 2 令和4年度は、10月、11月の計2回開催。



【社内物産展の様子】

【取組事例②】名城大学

- 1 名城大学のゼミ活動の一環として行われる、岩手県沿岸地域での現地学習実施にあたり、訪問学習先及び行程の提案を行い、マッチングを実施。
- 2 宮古市の「田老学ぶ防災ガイド」、「震災メモリアルパーク中の浜」での震災学習を実施。県外学生にとっては、震災の教訓を学ぶとともに、沿岸地域の人々と交流する有意義な機会となった。



【田老学ぶ防災ガイド】



【震災メモリアルパーク中の浜】

【取組事例③】セイコーウオッチ(株)

- 1 岩手県と包括連携協定を締結している、セイコーウオッチ株式会社（本社：東京都）の岩手県への来訪にあたり、沿岸地域での震災学習先の提案を行い、マッチングを実施。
- 2 調整の結果、宮古市の「田老学ぶ防災ガイド」での震災学習を実施。
- 3 なお、今回の県内訪問では、包括連携協定の連携事項の一つである、岩手県内の環境保全活動として、平庭高原での森林保全活動にも取り組んでいる。



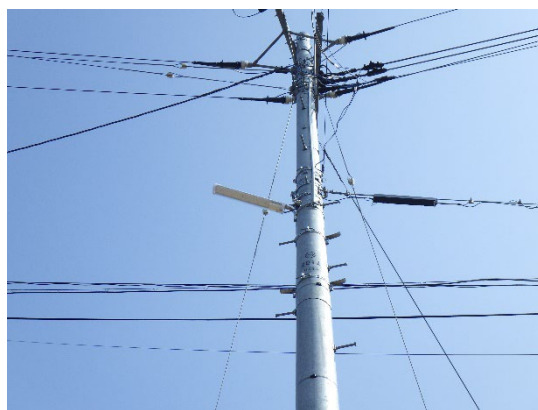
【田老学ぶ防災ガイド】

【取組事例④】豊田合成(株)

- 1 東日本大震災復興支援の一環として、岩手県の被災地域における「明るく安全な街づくり」のため、これまで継続してLED防犯灯の寄贈をいただいている。
- 2 令和4年度は、マッチングの結果、岩泉町に60灯の寄贈となった。



【岩泉町への寄贈式】



【生活道路への設置後の様子】

いわて未来づくり機構 復興教育作業部会の実績報告・活動計画

テーマ： 復興を担う人材の育成

座長： 本山 敬祐

担当団体： 岩手大学

報告要旨

本作業部会では各地のニーズに応じて「いわての復興教育」の充実に資する外部講師を派遣する「いわての師匠派遣事業」を平成26年度から実施している。

令和4年度は「いわての復興教育」の推進を引き続き支援し、各学校における復興教育の実践がより効果的になることを目指し次の3点に取り組んだ。

- (1) 岩手県及び岩手県教育委員会並びに各市町村教育委員会の協力のもと、私立学校を含む県内小中高及び特別支援学校への周知を早期化した。
- (2) 実施要項に基づいた講師派遣・プログラム提供の継続実施。
- (3) 各地のニーズを踏まえた活動の検討と、講師派遣に協力いただける機関の継続的確保。

令和4年度の派遣件数は24件となり、派遣件数・受講者数ともに過去最高を更新した。また、令和4年度からは本事業の協力機関として2つの機関が新たに加入した。

1 令和4年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

令和4年9月29日	第1回復興教育作業部会 上半期の活動状況の報告及び各機関からの課題・要望等の確認
令和5年3月6日	第2回復興教育作業部会 今年度の総括及び次年度事業の実施方針等の確認

2 令和4年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和4年度活動計画	令和4年度活動状況・成果・課題
「いわての師匠派遣事業」の実施	<p>【活動状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校が次年度の計画を立てるときに本事業を活用しやすくなるように実施要項の配布・公開を昨年度より3カ月前倒しした。 ・事業案内リーフレットを改善し写真付きで派遣事業の事例を紹介することで本事業に対する理解度向上を図った。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去最高となる24件の講師派遣が実施された。 ・2年ぶりに私立学校への派遣があった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加入機関に対して派遣機関が限定的である。

・HUGやクロスロード等、特定の教材の活用を含む要望が出されるものの、依頼側にその準備が無い場合がある。著作物の取扱いの観点からも特定のツールの使用を希望する場合は事前に用意いただく必要がある。

3 令和5年度の活動方針・予定

- ・派遣件数が年々増加している「いわての師匠派遣事業」の更なる充実を目指して、広報等の改善を継続する。
- ・加盟機関の相互理解や本事業の認知度向上を図る場を設ける。

いわて未来づくり機構 復興教育作業部会 活動状況報告

(令和4年度)

座長 岩手大学教育学部 教授 田代 高章

1. いわたの復興教育プログラム

平成31年3月改訂版

目的： 郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成(復興・発展を支えるひとづくり)

震災津波の教訓から得られた教育的価値(いきる・かかわる・そなえる)を具体化して、現代的な教育課題に対応し、これまでの教育活動を補完・充実させる

意義： 子どもたちが、「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方・あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造すること」ができるように、県内全ての学校で取り組むことに大きな意義がある。

- 震災津波の教訓から学んだことを生かす
- どんな時でも、生き抜くための力を身に付ける

目指すべき成果：

児童生徒の学びは学校を超え、地域全体に広がりを見せている現状に対して、児童生徒の学びを支えるために多くの大人が力を合わせることにより、新たな地域の姿を構築する。

いわて未来づくり機構では、復興を支える人材育成のため、岩手県教育委員会が推進する「**いわての復興教育**」に対して、「**いわての師匠派遣事業**」を通じて支援を行う。

2. 復興教育作業部会参画機関

部会会員機関	オブザーバー参加機関	いわて未来づくり機構 事務局
岩手県教育委員会事務局	富士大学	岩手県 政策企画部 政策企画課
岩手県 商工労働観光部 ものづくり自動車産業振興室	特定非営利活動法人 いわて連携復興センター	
岩手県 農林水産部 農林水産企画室	「いわての師匠」派遣事業協力機関 【※ 次ページ参照】	
一般社団法人岩手経済同友会		
岩手県中小企業家同友会		
公立大学法人岩手県立大学		
国立大学法人岩手大学		

計、6機関(8部署)
オブザーバー参加 2機関

令和2年度第2回作業部会より、「いわての師匠」派遣事業の
協力機関にもオブザーバーでの参加案内を実施

3. 「いわての師匠」派遣事業 協力機関

機関名	機関名	機関名
株式会社岩手銀行	一般社団法人 岩手県宅地建物取引業協会	岩手保健医療大学
岩手医科大学	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社岩手支店 ※
公立大学法人 岩手県立大学	公益財団法人 岩手県南技術研究センター	岩手県復興防災部消防安全課 ※
国立大学法人 岩手大学	公益財団法人 釜石・大槌地域産業育成センター	株式会社 IBC岩手放送 ※
一般社団法人 岩手県銀行協会	一般社団法人 岩手県医師会	損害保険ジャパン株式会社岩 手支店 ※
株式会社日本政策金融公庫 盛岡支店	(一般社団法人 岩手経済研究所 ※)	ワタミオーガニックランド株式会 社 ※
公益財団法人 岩手生物工学研究センター	岩手県信用保証協会	

※ は、令和3年度からの新規加入機関

※ は、令和4年度からの新規加入機関

※ は、令和4年3月末で解散し、「いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社」へ機能継承(本事業には「株式会社岩手銀行」として引き続き参画)

計 19機関

4. 「いわての復興教育」における3つの教育的価値

「復興教育作業部会(いわての師匠派遣事業)」と「いわての復興教育」との関係

「いわての復興教育」では、子どもたちが「震災津波の教訓を後世に語り継ぎ、自らの生き方、あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造する」ために必要な「**いきる**」、「**かかわる**」、「**そなえる**」の3つの教育的価値と具体の21項目を設定。復興教育作業部会では、いわての師匠派遣事業を通じ、「いきる」「かかわる」「そなえる」に沿ったテーマを設定した支援を展開。

いきる	かかわる	そなえる
かけがえのない生命 すべての生命は、かけがえのないものであることを実感し、大切にす。	家族のきずな 安心して生きていくための生活基盤として、家族の絆を大切にす。家族の一員として、自分の役割を果たす。	自然災害の様子と被害の状況 震災津波等、自然災害の様子と被害の状況について理解する。
自然との共生 自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念を持ち、自然とともに生きることについて考える。	仲間とのつながり 互いに支え合う仲間をつくり、友情を大切にす態度を養う。	自然災害発生メカニズム 震災津波等、自然災害が発生するメカニズムやそれぞれの災害について理解する。
価値ある自分 どのような状況においても、自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。	地域とのつながり 幼児や高齢者の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会の人の思いを知り、地域への愛着をもつことができるようにす。	自然災害の歴史 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく。
夢や希望の大切さとやり抜く強さ 夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、どんな状況においてもたくましく生きていくという強い意志と態度を養う。	ボランティア・救援活動 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	災害のライフライン・地域経済への影響 震災津波等、自然災害の被害による教訓をもとに、水・電気・ガス・灯油・ガソリン・道路などの供給・輸送システムやその大切さを理解し、ライフラインが止まった時に対応できるようにす。
自分の成長 自分の成長や生活が多くの人の支えで成り立っていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができるようにす。	自分と地域社会 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人々のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	災害時における情報の収集・活用・伝達 震災津波等、自然災害の被害による教訓をもとに、情報の大切さ、情報の収集、選択・判断、発信の方法などについて理解し、活用できるようにす。
心の健康 つらいことや悲しいこと、環境からくるストレスなどを感じた時の対処方法を学び、自分自身で心の健康を維持する。	復旧・復興のあゆみ 震災津波等の自然災害で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	学校・家庭・地域での日頃の備え 避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。
身体の健康 周囲の環境を理解し、状況に合わせてながら安全に気を付けて遊んだり、運動したりする。	災害に備える地域づくり 次の災害に向けたまちづくり、地域づくりにかかわる。	身を守り、生き抜くための技能 危機を予測(回避)し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。

5. 令和4年度の活動計画

(1) 目標

「いわての復興教育」の推進を支援するため、「いわての師匠派遣事業」を継続して実施し、各学校の復興教育がより効果的なものとなることを目指す。

時代の流れやニーズにあわせた作業部会の在り方について、検討を行う。

(2) 活動計画

- ① 「いわての師匠」派遣事業実施要項に基づいた、県内小中学校への講師派遣、プログラムの継続提供
 - ・ 派遣協力機関の追加及び内容変更の要望等に柔軟に対応するため、要項改訂の定期化
- ② 教育現場への効果的な広報策の検討
 - ・ 県内全ての小中高及び特別支援学校への周知に加え、現場の教員が集まる会議や研修での広報など、教育委員会の協力を得ながら多様な場での広報の実施
 - ・ デジタル化推進の流れを踏まえた、実施要項及び実績等のオンラインでの情報発信の強化
 - ・ 小中高及び特別支援学校への周知早期化(年間活動計画確定前を想定)
- ③ ニーズの多様化等を踏まえた活動の検討及び協力機関の継続的確保
- ④ 作業部会の開催等による、構成員との情報共有・課題の検証
 - ・ 新型コロナウイルスの感染動向も踏まえながら、年1～2回程度の開催を目指す

6. 令和4年度の取組状況

日付	内容
令和4年 3月末	「いわての師匠」派遣事業実施要項の配布・公開 ～岩手県教育委員会及び市町村教育委員会を通じ、県内全ての小・中・高等学校及び特別支援学校へ配布するとともに、事務局(岩手大学)ホームページに実施要項及び事例集を公開～ ※令和2年度より3カ月前倒して実施
4月～(随時)	「いわての師匠」派遣事業による講師の派遣
9月29日	第1回復興教育作業部会 ～上半期活動状況の報告及び各機関からの課題・要望等の確認～
令和5年 3月6日	第2回復興教育作業部会 ～今年度活動総括及び次年度事業の実施方針等確認～

7. いわたの師匠派遣事業 実施状況（令和4年度 ①）

	学校名	月日	人数	講師	内容
1	岩手県立 住田高等学校	11月17日	全校生徒 75名	岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター 長 眞瀬 智彦 医学部 助教 藤原 弘之	講演： 1. 「災害医療概論」救急医療と災害医療の相違点・阪神淡路 大震災における情報ミスから学ぶ ・D M A T（Disaster Medical Assistance Team）の実態と 働き、・広域医療輸送計画・S C U・E M I S（広域災害救急 医療情報システム）の実情
2	岩手県立 花北青雲高等学校	9月27日	2学年 141名	岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター 長 眞瀬 智彦 助教 富永 綾	講演・演習： 「キャリアデザイン」～自分らしい生き方の設計～ ・「地域で予想される自然災害についての知識と対処法を学び、被 害を最小限にするために何をすべきか」を考える
3	釜石市立 唐丹中学校	6月10日	2学年 4名	岩手大学教育学部（附属教育実践・ 学校安全学研究開発センター）准教授 本山 敬祐	・講演： 地域で予想される自然災害についての知識と対処法 ・被害を最小限にするために何をすべきか」を考える
4	岩手県立 盛岡南高等 学校	6月20日	1 学年 228名	岩手県立大学 総合政策学部 講師 杉安 和也	講演： 東日本大震災での被害と震災から1 1年後の現状
5	八幡平市立 柏台小学 校	9月2日	生徒 37名 教職員 8名 行政 2名 合計 47名	岩手大学 地域防災センター 客員教授 土井 宜夫	講演 1. 岩手山噴火を想定した避難訓練への講評と指導助言 2. 岩手山監視カメラについて
6	岩手県立 水沢商業高 等学校	7月12日	3 年会計ビジネス科 39名	岩手県信用保証協会 企業支援部企業支援課副課長 大川 康亮 企業支援部企業支援課女性起業家支 援チーム副課長 井上 里華	講演・演習： 地域振興の一助となる新たなビジネスの創造、起業について
7	宮古教育事務所	7月29日	教職員 40名	岩手大学 地域防災研究センター（理工学 部）松林 由里子 助教	講演： 自ら考え行動するための防災教育

7. いわたの師匠派遣事業 実施状況（令和4年度 ②）

	学校名	月日	人数	講師	内容
8	八幡平市教育研究所	7月27日	教職員 29名 行政関係者 1名 合計 30名	岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留邦洋 地域防災研究センター（理工学部）教授 越谷 信 地域防災研究センター（理工学部）准教授 岡田 真介 教育実践・学校安全学研究開発センター 准教授 本山 敬祐 教育実践・学校安全学研究開発センター（教育学部）准教授 苗村康輔	講演： 火山噴火の特徴、防災情報（気象庁、自治体の役割等）、岩手山の避難計画 演習：火山災害に関する状況付与に基づくブレインストーミング
9	岩手県立 花巻清風支援学校	8月1日	教職員 110名	岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋 岩手大学教育学部（附属教育実践・学校安全学研究開発センター）准教授 本山 敬祐	講演・演習： ・教職員対象校内研修における、災害リスク発生時の危機管理について ・「学校版タイムラインづくり」などの演習、助言
10	岩手県立 盛岡となん支援学校	8月3日	教職員 10名	岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋	講演： ・肢体不自由の支援学校の実態に即した避難場所の設定や、災害時に有効な避難訓練のあり方、実用的な危機管理マニュアルについて
11	北上市立 黒沢尻北小学校	9月6日 9月13日 9月14日	3学年 115名 教職員 21名 保護者 6名 行政担当 6名 地域代表 19名 合計 167名	岩手県立大学 総合政策学部 准教授 宇佐美 誠史	講演・演習： ・フィールドワーク「まちあるき」 ・交通安全、生活安全の視点による「安全マップ」の作成
12	県南教育事務所	9月7日	教職員 100名	岩手大学教育学部（附属教育実践・学校安全学研究開発センター）准教授 本山 敬祐	講演： ・自然災害に備えた各校の多様な実践事例、取組の具体的紹介 ・いわての復興教育のねらいや価値、児童生徒に育みたい資質・能力、未来志向の復興教育の在り方や方向性について
13	岩手県立 高田高等学校	9月21日	生徒 322名 教職員 53名 合計 375名	岩手県立大学 総合政策学部 講師 杉安 和也	講演： ・過去の災害に係る地域の災害リスク ・災害で起こる現象やとるべき行動について

7. いわたの師匠派遣事業 実施状況（令和4年度 ③）

	学校名	月日	人数	講師	内容
14	盛岡市立 城西中学校	9月6日	生徒 112名 教職員 6名 合計 118名	岩手県立大学 総合政策学部 講師 杉安 和也	講演： 避難所運営ゲーム「HUG」を使用した講義
15	岩手県立 久慈拓陽支援学校	1月23日	高等部2年 12名	岩手保健医療大学 助教 齋藤 史枝	講演： ・学校・家庭・地域での日頃の備え ・災害時の対応
16	紫波町立 紫波第二中学校	2月22日	164名	岩手県立大学 看護学部 講師 谷地 和加子	講演： 1・2 学年 「思春期の体と心の変化など」 3 学年 「思春期における性意識と行動、及び生命尊重」等
17	住田町立 世田米中学校	10月4日	2・3 学年 72名	あいおいニッセイ同和損保保険 (株) 岩手支店自動車営業課 高橋 桃子 氏 大山 泰河 氏 田中 里美 氏	講演： 防災学習「自然災害から身を守るー身の回りのリスクと備えー」
18	盛岡大学附属高等学校	11月15日	生徒 522名	岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター長 眞瀬 智彦 教授	講演： 自然災害の歴史、復興に関すること、震災後の心のサポート等大震災の被害の状況、災害医療の実態、避難所について
19	盛岡商業高等学校	10月4日	生徒 693名 教職員 64名 合計 757名	岩手大学 地域防災研究センター（理工学部）松林 由里子 助教	講演： 「自分の命を自分で守るために」 地域の災害リスクを知り、ハザードマップの見方や活用の仕方、実際の災害で起こりえる現象や取るべき行動について
20	盛岡ひがし支援学校	12月13日	教職員 16名	岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋 教育実践・学校安全学研究開発センター 准教授 本山 敬祐	講演・演習： 教員校内研修における災害リスクの発生時の危機管理について ・危機管理マニュアルについて（整備の経緯、構成、取り上げられる事項、事案）

7. いわたの師匠派遣事業 実施状況（令和4年度 ③）

	学校名	月日	人数	講師	内容
21	盛岡市立 北松園中学校	12月15日	2学年 36名	岩手県立大学 総合政策学部 講師 杉安 和也	講演： ・自然災害のメカニズムと命を守るための情報・活用・伝達
22	北上市立南中学校	1月18日	1学年 111名	岩手県立大学 総合政策学部 講師 杉安 和也	講義： ・災害時における情報の収集・活用・伝達 ・学校・家庭・地域での日頃の備え ・自然災害全般から生き残るための基礎知識
23	盛岡市立黒石野中学校	3月1日	中学生 10名	岩手大学 地域防災研究センター 教授 福留 邦洋 教育実践・学校安全学研究開発センター 准教授 本山 敬祐	講演：大雨による土砂災害などの災害・減災の概要 演習：「防災カルタ」を使用したの防災に関する演習
24	葛巻町立葛巻小学校	3月10日	全校生徒 103名	(株)IBC岩手放送メディア編成局メディア戦略部 相原 優一 氏 松田 可朗 氏	・講演：東日本大震災津波の様子と被害の状況
			累計 3,313名		

8. いわたの師匠派遣事業の実績 (TOPIC ①)

月日: 令和4年7月12日(火)

学校: 岩手県立水沢商業高等学校 3年会計ビジネス科 39名

講師: 岩手県信用保証協会 企業支援部企業支援課 井上里華 副課長

内容: 講演・演習「地域社会の現状と、新たなビジネスの創造・起業」



要旨

「地域経済活性化」の一つとなる起業について詳しく知り、事業計画書の作成方法を学ぶ。

生徒からの感想(抜粋)

- ・起業について詳しく知ることによって、多くの知識が必要であると再確認できた。
- ・高齢者の多い地域のため、都会とは違ったニーズが隠れているのではないかと感じる。

授業・講演等による効果

- ・ 外部講師を招いて講義をしてもらうことにより、生徒たちへ最新の生きた情報が届けられると考えている。地域に住む生徒たちが、自分たちの将来(起業)と自分たちの地域の将来を考える時間になったと感じる。
- ・ 今回の講義は、授業で「この地域での新しいビジネスプラン」を創造する上での基盤となった。また、起業という選択から地域活性化、未来を生きていく生徒たちの力となることが期待できた。

8. いわたの師匠派遣事業の実績 (TOPIC ②)

月日:令和4年8月1日(月)

学校:岩手県立花巻清風支援学校 教職員110名

講師:岩手大学地域防災研究センター 福留邦洋 教授

岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター

本山 敬祐 准教授

内容:講演・演習

- ・想定される災害リスクの発生時における危機管理について
- ・「学校版タイムラインづくり」の演習



要旨

はじめに学校周辺地域のハザードマップ等を参考に気象災害に関する事前学習を行い、その後、個別の災害を想定して、状況付与型イメージトレーニング型訓練をグループワーク形式で実施した。

イメージトレーニング型訓練で取りまとめた情報を基に、学校版タイムラインの作成を行った。

教職員からの感想(抜粋)

身近な地域で災害が発生していることもあり、このような場合にどのように備えたらよいか具体的に考える機会になった。こどもの住んでいる地域の情報も注意してみるようになった。

授業・講演等による効果

従来の危機管理マニュアルでは、危機に遭遇した際、管理職に指示や判断の責任が集中している場合が多いが、管理職不在の場合に危機に対応しなければならない状況もあり得る。今回の講演では、危機対応を教職員一人一人が自分事として考え、判断し行動できるような意識と具体的対応を、イメージトレーニング型訓練を通じて得ることができた。

会議室を主会場として各職員室とオンラインでつながる方法で実施し、参加者の人数が多くても感染防止対策を十分にとって行うことができた。

8. いわたの師匠派遣事業の実績 (TOPIC ③)

月日: 令和4年9月6日(火)、13日(火)、14日(水)

学校: 北上市立黒沢尻北小学校

児童110名、保護者21名、教職員6名、行政関係者6名、地域19名
合計167名

講師: 岩手県立大学 総合政策学部 宇佐美 誠史 准教授

内容: 講演・演習

・フィールドワーク「まちあるき」の実施、及び安全マップの作製



要旨

・(1)交通安全、(2)不審者、(3)道路やその周囲、建物などの危険、(4)子ども110番の家・店 など危険を探す視点、ポイントについてクイズ等を交え説明を行い、示されたマークをもとにチェックした危険箇所を実際に探し、チェックした危険箇所を安全マップに記録した。

教職員からの感想(抜粋)

フィールドワーク時に危険に関する視点を具体的に示していただいたことで、児童も危険性を具体的に予測し、マップに記録することができた。

授業・講演等による効果

フィールドワーク後に、当日調べた内容の活用の仕方を解説してもらうことで、今後の活動の見通しを持つことができた。

また、安全マップ作りに対する意欲を得ることにも繋がった。

8. いわたの師匠派遣事業の実績 (TOPIC ④)

月日:令和4年10月4日(火)

学校:住田町立世田米中学校 全校生徒62名、教職員10名

講師:あいおいニッセイ同和損害株式会社

岩手支店自動車営業課

高橋 桃子 氏、大山 泰河 氏、田中 里美 氏

内容:講演・演習

「身の回りのリスクと備え」



要旨

生徒が自然災害の危機に際して自らの命を守りぬくため「主体的に行動する」態度を養うことを目的として、防災学習「身の回りのリスクと備え」の講演を実施した。

講演では、リアルタイム被害予測ウェブサイト「cmap」を活用し、生徒自身が実際にパソコンやタブレットを操作しながら地域の洪水浸水想定区域等の情報を収集した。

教職員からの感想(抜粋)

- ・「cmap」を使えば1つのサイトで様々なことを調べられるのが良いと思った。
- ・小さいころに家の近くの気仙川が溢れ、畑が駄目になったと親に聞いたことがある。危ない場所を前もって知るのは大事だと思った。

授業・講演等による効果

- ・生徒が今何に備えればいいのかを知る機会になり、より防災への意識が高まる良い機会となった。
- ・パソコンやタブレットを実際に操作しての活動やクイズ形式での講演であり、生徒の実態にあった講演内容で非常に効果的だった。

9. いわたの師匠派遣事業 令和4年度の傾向

(1) 「いわたの師匠」派遣事業による派遣依頼数、実施時期

- 令和5年3月2日時点:24件※(令和3年度16件)
- 夏季(7~9月)に派遣依頼が集中。
- これまで依頼が多くなかった下半期についても派遣依頼あり。

(2) 今年度見られる傾向

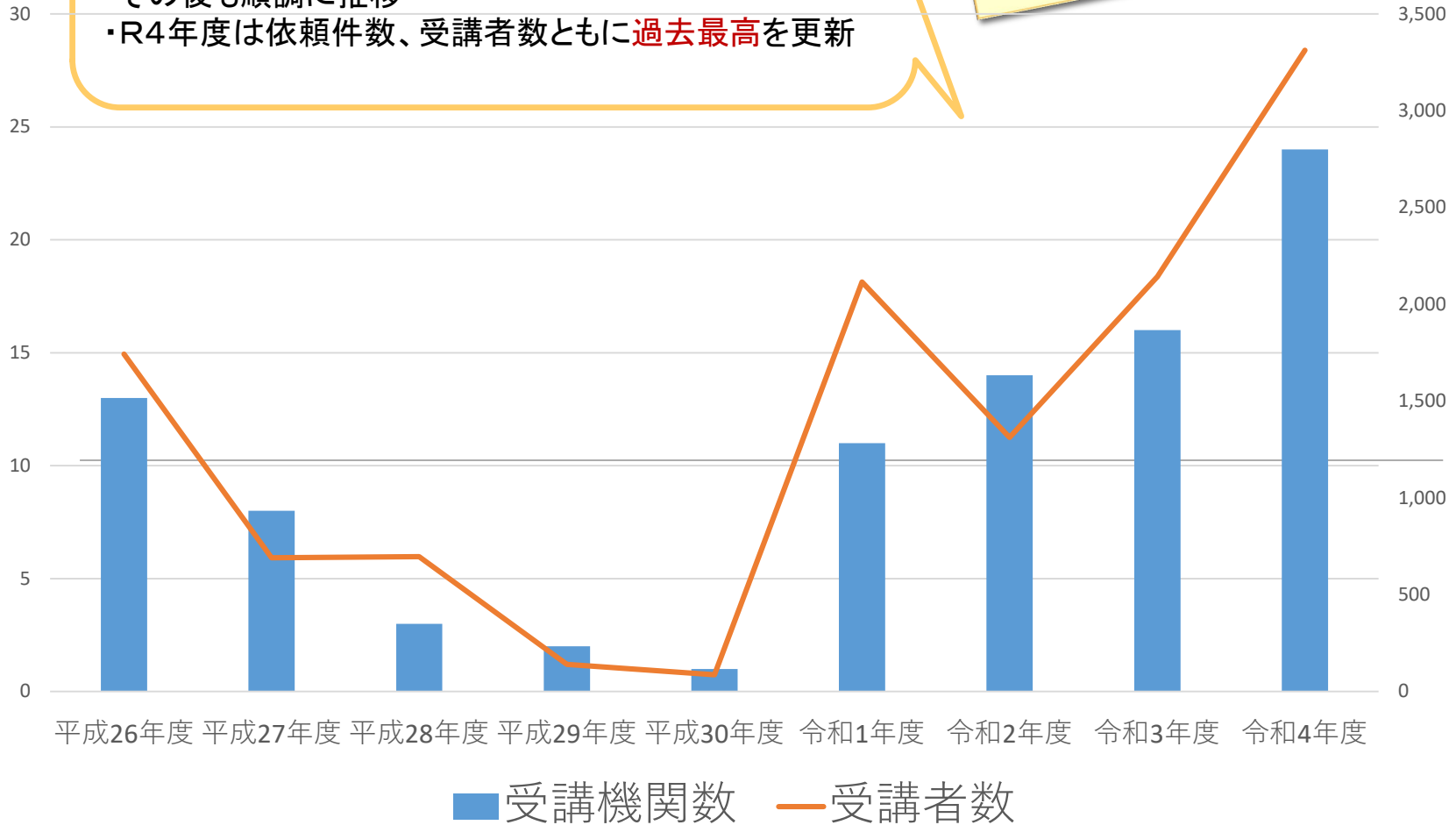
- 上半期依頼件数が昨年度より増加。
- 実施時期も早期化の傾向も昨年度に引き続き見られる。
募集要項配布時期の早期化(6月→3月)の効果と予測。
- オンライン併用の実施もあるが、対面での実施も回復しつつある。
- **教職員や地域関係者を対象とした事業が増加。**
- 特定の教材(避難所運営ゲームHUG、クロスロードゲーム)の使用を希望する等、具体的な派遣依頼が複数みられる。
→派遣依頼機関で準備することを前提としたい。
- 「そなえる」に関連する防災関係の派遣依頼が多数を占めている。
→「いきる」「かかわる」に関連するプログラムについて認知されていない。
広報の工夫が必要。

10. 年度別受講機関数、受講者数の推移

岩手県教育委員会の協力が実績増に大きく寄与

- ・R元年度に受講機関・受講者が大幅増加し、その後も順調に推移
- ・R4年度は依頼件数、受講者数ともに**過去最高**を更新

延べ 91校 12,175名が受講



11. 今後の課題

(1) いわて未来づくり機構の第4フェーズ目標期間(令和5年度～)を踏まえた作業部会のあり方に関する検討

👉 時代の流れやニーズに合わせた作業部会のあり方について、確認が必要

- 作業部会員及び「いわての師匠派遣事業」協力機関の役割の確認
- 上記を踏まえた部会構成員の見直し(事業協力機関の作業部会員としての参画、及び座長の交代(第4フェーズからを想定))
- 事務局機能の見直し(派遣協力機関の掘り起こし、学校ニーズへの的確な把握及び事業の活用を希望する各学校との円滑な連絡・調整等を踏まえた体制の検討)

(2) いわての師匠派遣事業協力機関の拡大方策

👉 令和3年度から3機関、令和4年度から2機関が新規参画(計19機関)

- いわての復興教育プログラムにおける教育的価値(いきる、かかわる、そなえる)を踏まえると、今後は防災教育以外の講師派遣がより重要であり、協力機関の拡大が必要
- 派遣機関の偏りの改善・多様化を目指した取組の検討が必要

(3) 事業の広報

👉 教育現場への効果的な広報の方策

- 県内全ての小中高(特別支援学校を含む)への事業案内や案内の早期化、募集要項・申込書の電子化などにより、一定の周知効果は得られているが、継続的に改善が必要
- 派遣協力機関の個別の事業紹介など、各機関の情報や実施可能なメニューに関する情報発信策の検討も必要

(4) 新たなステークホルダーとの関わり方

- ニーズが多様化する中、「いわての復興教育」を推進するうえで、児童生徒を取り巻くさまざまな環境に対し、「いわての師匠派遣事業」による貢献が可能であることを再確認
- 今後は、教員向け、保護者向けプログラムや体験型プログラムの拡充が必要では。

いわて未来づくり機構

いわて復興未来塾作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：復興や地域づくりの担い手の育成及び人材のネットワークづくり

座長：大畑 光宏

担当団体：岩手県復興防災部

報告要旨

復興を担う個人や団体など多様な主体に学びの場を提供するとともに、相互の連携や交流を図りながら、復興や地域づくりの担い手の育成と人材のネットワークづくりを推進するため、リモートを併用するなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら「いわて復興未来塾」を2回した。

1 令和4年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

■いわて復興未来塾開催実績

	日程	会場	テーマ／講師・パネリスト
第1回	R4.7.2 (土)	釜石情報交流センター「チームスマイル・釜石PIT」多目的集会室 (参加者 約70名) (参考) ※WEB 当日視聴：86名 ※事後 WEB 再生回数：178回 (R5.3.31時点)	(1) テーマ 進化する伝承・発信と更なる交流に向けて (2) 基調講演 「デジタル技術を通じた東日本大震災津波の伝承」 株式会社IBC 岩手放送 メディア戦略部 シニアマネージャー 相原 優一 氏 (3) 事例報告 「後方支援拠点における防災力向上に向けた伝承発信の取組事例」 遠野市消防本部 消防長 千田 一志 氏 (4) 応援職員OB等座談会 「東日本大震災津波を忘れない ～全国からの支援と交流の歩み～」 東京都、大阪府、長野県、名古屋市の応援職員OBにより、座談会形式で交流の歩みを振り返った。 (聞き手) 株式会社高田松原 代表取締役社長 熊谷 正文 氏
第2回	R4.9.25 (日)	(1) 震災遺構等見学エクスカーション 高田松原津波復興祈念公園 (参加者 50名) (2) 東日本大震災津波伝承館開館3周年・震災語り部等ガイドサミット 陸前高田市コミュニティホール (参加者 約60名) (参考) ※WEB 当日視聴：160名 ※事後 WEB 再生回数：344回 (R5.3.31時点)	震災遺構等見学エクスカーション 高田松原津波復興祈念公園パークガイドの案内による震災遺構の見学、解説員の説明を聞きながら東日本大震災津波伝承館の視察を実施。 (1) テーマ 未来につなぐ震災伝承 (2) 基調講演 「阪神・淡路大震災の語り部活動について」 【兵庫県】北淡震災記念公園 総支配人 米山 正幸 氏 (3) パネルディスカッション 「いのちを守り、海と大地と共に生きる～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～」 【陸前高田市】(特非)桜ライン311 代表理事 岡本 翔馬 氏 【陸前高田市】東日本大震災津波伝承館 解説員 吉田 彰 氏 【宮城県】(公社)3.11 未来サポート 理事 藤間 千尋 氏 【福島県】東日本大震災・原子力災害伝承館 職員 渡邊 舞乃 氏 【大槌町】(一社)おらが大槌夢広場 代表理事 神谷 未生 氏 (聞き手) 【兵庫県】北淡震災記念公園 総支配人 米山 正幸 氏(コメントター)

2 令和4年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和4年度活動計画	令和4年度活動状況・成果・課題
<p>(1) 目標・出すべき成果</p> <p>より良い復興の実現に向け、復興に関わりたいと考えている多くの方々に復興に関する学びの場を提供するとともに、参加された方々の交流や連携を図る。</p> <p>(2) 活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年1月に開催予定だった令和3年度第3回未来塾の内容を踏襲し、7月に開催する。また、東日本大震災津波伝承館の開館3周年に合わせて9月に開催する。（計2回開催） 参加者は広く県民を対象としつつ、特に大学生等の若者、女性の参加を促進する。 未来塾の様子は、リモートを活用し、インターネット（いわて希望チャンネル）で配信する。 「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」の趣旨にのっとり、関連イベント等の情報提供をはじめ震災の事実と教訓の伝承、復興の姿を継続的に発信することにより、震災の風化を防ぎ、県民等の参画につなげていく。 	<p>(1) 活動状況・成果</p> <p>ア 第1回いわて復興未来塾について</p> <p>過去の災害を刻んだ石碑や遺構のVR（仮想現実）映像等を紹介しながら、震災を知らない世代に教訓を分かりやすく伝えることができるデジタルの可能性について基調講演いただいたほか、東日本大震災津波で遠野市を拠点に沿岸各地へ展開された被災地支援活動について、震災前から構想を策定し、自治体間連携や訓練を重ねるなど平時からの備えが生かされたことについて事例報告いただいた。また、応援職員OBによる座談会を実施し、岩手に派遣された期間に経験した復興の取組や苦労したこと、岩手での思い出について、個性豊かに意見が交わされた。</p> <p>イ 第2回いわて復興未来塾について</p> <p>震災遺構見学等エクスカージョンのほか、平成7年に発生した阪神・淡路大震災の語り部活動を紹介しながら、聞き手のニーズの変化に対応した語り部活動の必要性等について基調講演いただいたほか、被災3県の伝承施設関係者によるパネルディスカッションを実施し、震災の経験者だけでなく若い世代など多くの方々が自分のできる方法で伝承に取り組むことの重要性などについて意見交換した。</p> <p>ウ 上記の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進化する伝承・発信」「未来につなぐ伝承発信」という観点から様々な事例等を紹介することで、多様な世代に対し、復興への参画を促した。 復興現場や震災伝承施設の見学を併せて実施することで、参加者と現地で活動している方々や、参加者同士がコミュニケーションできる場づくりを推進した。 インターネット配信を活用することで、会場に参集できない遠隔地の方々に対しても、本県の復興の姿を発信した。 <p>(2) 課題</p> <p>震災から12年が経過し、震災津波の経験や記憶のない世代が増えていく中、県内外の遠隔地等を含めた多くの方々に本塾に参加いただき、岩手県の復興の取組に一層関心を寄せていただけるよう、インターネット配信によるオンライン視聴を併用するなど、リモートの活用にも引き続き取り組んでいく必要がある。</p>

3 今後の活動方針・予定

- (1) 目標・出すべき成果
- より良い復興に取り組み、復興のステージを更に前に進めていくため、今後とも復興に関わりたいと考えている多くの方々に復興に関する学びの場を提供するとともに、参加された方々の交流や連携を促進する。
- (2) 活動計画
- 復興道路・支援道路など新たな道路ネットワーク等を活用した三陸地域での地域づくりや産業振興について考える機会とするため、「新しい三陸の創造」をテーマとして7月に宮古市で開催する。また、12月に盛岡市で開催する予定。（計2回開催）
 - 参加者は広く県民を対象としつつ、特に大学生等の若者、女性の参加を促進する。
 - 未来塾の様子は、YouTube「岩手県公式動画チャンネル」でインターネット配信する。
 - 「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」の趣旨にのっとり、関連イベント等の情報提供をはじめ震災の事実・教訓の伝承、復興の姿の発信を継続的に実施することにより、震災の風化を防ぎ、県民等の参画につなげていく。

いわて復興未来塾	日程（予定）	開催概要
第1回 （会場：宮古市）	7/9（日）	地域活性化や交流人口の拡大に取り組む団体等と連携し、沿岸報告会や震災遺構見学会（エクスカージョン）を実施。
第2回 （会場：盛岡市）	12月	有識者等による基調講演及び沿岸地域等で復興に取り組む方々からの事例報告を行う。

令和5年度第1回



いわて復興未来塾

新しい三陸の創造 ~人・モノ・コトの交流~

併催:いわて三陸復興フォーラム(沿岸報告会)・「いわての復興を自治の進化に」第10回シンポジウム

参加無料



盛岡 発着
シャトルバス を運行
(定員40名)

2023年7月9日 日

お申込みはこちらの
QRコードから →
参加申込み切
6月26日(月)



定員 40名

午前の部:エクスカーション

10:00 ~ 11:00

田老の学ぶ防災ガイド

- 田老防潮堤、津波遺構「たろう観光ホテル」見学
- 津波映像の上映

※ 徒歩移動があります。動きやすい服装で御参加ください

【ガイド】元田 久美子氏

(一般社団法人宮古観光文化交流協会 学ぶ防災ガイド)



元田 久美子氏



【津波遺構】たろう観光ホテル

田老の学ぶ
防災ガイド
詳細は
コチラ!



★シャトルバス利用者限定★

ランチは浄土ヶ浜で宮古名物「瓶ドン」をお楽しみいただきます! ※希望者のみ(ランチ料金は別途頂戴いたします)

定員 70名

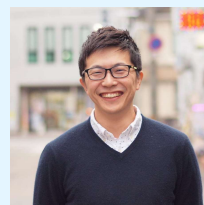
午後の部:いわて復興未来塾

13:30 ~ 15:30

会場:宮古市地域創生センター(うみまちひろば) 4階多目的ホール

13:30 開会・知事挨拶 (宮古市神林3番1号(旧宮古警察署) TEL:0193-65-7133)

13:35 事例報告① 復興と地域を担う若い世代の未来を支える取組
早川 輝氏
【NPO法人みやっこベース 理事長】



早川 輝氏



楠田 拓郎氏

14:10 事例報告② 地域の人・文化・魅力を活用した観光振興の取組
楠田 拓郎氏
【NPO法人体験村・たのはたネットワーク 理事長】

14:45 事例報告③ 復興道路と空路を活用した県産品の販路開拓に向けた挑戦
佐々木 邦晃氏 【日本航空(株) 鹿児島支店 副支店長】



佐々木 邦晃氏

15:20 総評

15:30 閉会

会場の様子は、YouTubeチャンネル

岩手県公式動画チャンネルでライブ配信します!



田老防潮堤・津波遺構「たろう観光ホテル」

「学ぶ防災ガイド」の案内により、東日本大震災津波で甚大な被害のあった宮古市田老地区の現状や当時の状況を、防潮堤に上って視察します。また「たろう観光ホテル」において、このプログラムでしか視聴することのできない同ホテルに押し寄せる津波映像をご覧いただけます。※「たろう観光ホテル」の施設内部は、ガイドの同伴を条件として立ち入りが許可されるものです。

はやかわ あきら

早川 輝氏 (NPO法人みやっこベース 理事長)

1987年生まれ、福岡県北九州市出身。九州工業大学卒業後、オーストラリアに2年間滞在し、2011年に帰国。同年6月から災害ボランティアとして宮古市で活動をスタート。2013年に「ユースみやっこベース」を設立し、高校生が宮古の今とこれからを考えるサミットの開催、地元企業とのコラボ商品開発、フリースペース「みやっこハウス」の開設などを実施。2015年から「NPO法人みやっこベース」として、10年間に渡り「若者が活躍できるまち・宮古」をテーマに、地域の活性化に尽力。

みやっこベース



くすだ たくろう

楠田 拓郎氏 (NPO法人体験村・たのはたネットワーク 理事長)

東京都出身。大学を卒業し東京で勤務した後、2006年12月に田野畑村に移住。2017年6月から同NPOの理事長に就任。「体験村・たのはた 番屋エコツーリズム」という考え方のもと、サップ船アドベンチャーズ、みちのく潮風トレイルガイド、大津波語り部活動、漁師（ハンモド）の塩作りなど、様々な自然体験プログラムを提供。

体験村・たのはたネットワーク



ささき くにあき

佐々木 邦晃氏 (日本航空(株)九州支社 鹿児島支店 副支店長)

※2020年4月から2023年3月まで、岩手県商工労働観光部産業経済交流課にセールスディレクターとして勤務
1996年に日本エアシステム（JAS）のグループ会社に入社。法人セールスや添乗員、社員教育部門でのファシリテーター、地域と連携したインバウンド誘致などを担当し、2020年に岩手県と日本航空（JAL）が行う人材交流の第一号として岩手県に着任。JALグループのJ-AIR協力のもと、大阪国際空港で実施している「ITAMI空の市」などと連携し、県内事業者や生産者と共に、復興道路と空路を活用した高鮮度の県産品の販路拡大に挑戦。

いわて復興未来塾とは



岩手県知事 達増 拓也

東日本大震災津波からの復興を力強く進めていくためには、復興を担う個人や団体など多様な主体が、復興について幅広く教え合い、学び合うとともに、相互に交流や連携をしながら、復興の推進に生かしていくことが求められます。

このため、岩手県内の産学官の連携組織「いわて未来づくり機構」では「未来づくり＝人づくり」との考え方のもと、「いわて復興未来塾」を開催しています。

盛岡発の無料往復シャトルバスのご案内（乗車定員：40人）

【往路】盛岡駅西口 7:45発 ⇒ 県庁 8:00発
⇒ 道の駅たろう 9:50着
～ エクスカーション～ 11:25発
⇒ 浄土ヶ浜レストハウス 11:50着
～ 昼食休憩（1時間）～ 12:55発
⇒ うみマチひろば 13:10着

※ 座席数に限りがありますので、申込みはお早めをお願いします。
※ 乗車中のマスク着用は、参加者個人の判断で着脱願います。
※ シャトルバス利用者の駐車場はご用意しておりません。
※ ランチ料金は、当日バス乗車時に現金にて頂戴いたします。

【復路】うみマチひろば 15:40発
⇒ 県庁17:20着 ⇒ 盛岡駅西口17:35着（予定）

申込締切

2023年6月26日(月)

問い合わせ

いわて未来づくり機構（事務局：岩手県復興防災部復興推進課）

〒020-8570 盛岡市内丸10-1 TEL：019-629-6945 E-mail：AJ0001@pref.iwate.jp

申込方法

いずれかの方法で申込みください

①QRコードで申込み

リンク先の専用フォームから必要事項を入力の上、お申込みください。

お申込みはこちらから →



②メールで申込み

お申込み先：AJ0001@pref.iwate.jp

件名を「第1回いわて復興未来塾」として、下記の必要事項をご記入の上、お申込ください。

- ①氏名（ふりがな）②職業・所属・団体名等 ③住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス
- ⑥参加希望プログラム（全て・午前のみ・午後のみ）※いずれかを選択
- ⑦交通手段（シャトルバス盛岡駅西口乗車・シャトルバス県庁乗車・自家用車利用）※いずれかを選択
- ⑧昼食メニュー（宮古産トウモロコシの瓶ドン 1,500円・煮干し中華そばとミカールセット 1,000円・不要）※いずれかを選択（シャトルバス利用者のみ）

③郵送での申込み

※6月26日必着でお願いします。 ※ 定員に達し次第、参加をご遠慮いただくことがあります。

下記の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、お申込みください。 ※ 自家用車は、各会場付近に駐車可能です。詳細は参加申込後に別途お知らせします。

第1回いわて復興未来塾 参加申込書

ふりがな 氏名	職業・所属 団体名等
〒 住所	電話番号（携帯番号推奨）
	メール

■参加希望プログラムを○で囲んでください
〔 全て・午前のみ・午後のみ 〕

■シャトルバス利用希望（乗降車場所）又は自家用車利用を○で囲んでください
〔 シャトルバス盛岡駅西口・シャトルバス県庁・自家用車 〕

■希望するランチメニューを○で囲んでください ※シャトルバス利用者のみ
〔 宮古産トウモロコシの瓶ドン 1,500円・煮干し中華そばとミカールセット 1,000円・不要 〕

※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に基づき「いわて復興未来塾（今後の開催予定の告知を含む）」以外の用途には一切使用しません。

いわて未来づくり機構イノベーション推進作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：岩手型イノベーションの推進について

座長：藤原 由喜江

担当団体：科学・情報政策室

報告要旨

令和4年度は、Society5.0の目指す超スマート社会を見据え、岩手県科学技術イノベーション指針に基づき、ドローン物流の社会実装に向けた取組を推進した。作業部会や研究会等でドローンの利活用や社会実装に向けた全国の取組を共有するとともに、岩泉町での実証実験を実施した。今後は、地域で持続可能なビジネスモデルの構築について検討を進めていく。

1 令和4年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

令和4年9月13日	第1回作業部会（岩手県イノベーション創出推進会議） <ul style="list-style-type: none">・岩手県科学技術イノベーション指針の数値目標に対する達成状況・i-SB事業化プラットフォーム形成の取組について・令和4年度ドローン実証事業について
令和5年3月17日	第2回作業部会（岩手県イノベーション創出推進会議） <ul style="list-style-type: none">・岩手県知的財産活用促進プランの策定について・i-SB事業化プラットフォームについて

2 令和4年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和4年度活動計画	令和4年度活動状況・成果・課題
Society5.0の目指す超スマート社会を見据え、岩手県科学技術イノベーション指針に基づき、引き続きドローン物流の社会実装に向けた実証実験を実施するとともに、社会課題解決に向けた未来技術の活用に関するワークショップ開催や全国における活用事例を調査し、本県における取組の方向性について研究を進める。	<ul style="list-style-type: none">■実証実験（令和5年2月20日～2月21日）<ul style="list-style-type: none">・内容・成果：岩泉町内の2ルートでドローン配送<ul style="list-style-type: none">①買物困難者などに対する日用品の配送を目的 食料品2.9kgを往復7km配送②新しい観光資源の創出と事業採算性の確保を目的 食料品2.5kgを往復1.2km配送・課題：<ul style="list-style-type: none">①事業採算性の確保②陸上配送との最適な組合せ、地元企業との連携体制構築、利用者の拡充、ドローンの多用途活用の検討■ドローン利活用に係る勉強会（令和4年8月3日）<ul style="list-style-type: none">・内容：行政向けドローン多用途活用の可能性・参加者：11名■いわて未来技術社会実装推進会議・いわてドローン物流研究会（令和5年3月9日）<ul style="list-style-type: none">・内容：R4事業報告、講演（ドローン物流の現状と今後の展望）・参加者：16名

3 令和5年度の活動方針・予定

岩手県科学技術イノベーション指針に基づき、引き続きドローン物流の実証実験を実施するとともに、県内研究機関のオリジナル技術の社会実装支援や、新たな産業の芽となる独創的なアイデアや社会ニーズに基づく新たな研究シーズを生み出す取組を進める。

～必要に応じて参考資料を提出願います。～

いわて未来づくり機構子育て支援作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：仕事と子育ての両立のための支援体制整備の推進

座長： 庄司知恵子

担当団体：岩手県立大学

報告要旨

令和4年度は、前年度、座長不在の為、活動休止であったことから、関係部署との課題共有と関係性の再構築をはかった。活動予定としては、①インターンシップの実施、②シンポジウム（ワーク・ライフ・バランス推進セミナー）の開催、③調査の実施を計画した。

①についてはcovid19の影響により調整が難しく行えなかった。②については、いきいき岩手支援財団主催のもと、「人生100年時代、キャリアの舵取りはあなた！！～社会と企業はあなたの応援団～」と題し、セミナーを開催した（12月16日）。第一部では、兼子佳恵氏（一般社団法人りとりとーと 代表理事）を講師に「自分の『普通』がキャリアになる」をテーマに講演頂き、第二部では、株式会社プラザ企画の佐々木美幸氏、いきいき支援財団の藤尾美奈氏をパネリストに、コメンテーター兼子氏、コーディネーター庄司のもと、女性のキャリア形成について、企業はどうあるべきか、社会はどうあるべきかについて、フロアーも交え、ディスカッションを行った。③については、「コロナ禍における子育て中の保護者の援助要請行動についての実態Ⅱ」とし、「保護者に対する調査」（第一部）、「相談専門職に対する調査」（第二部）を行った。調査は、いきいき岩手支援財団企画のもと、第一部は岩手県立大学社会福祉学部・瀧井美緒講師による設計・分析、第二部は座長庄司による設計・分析による。調査報告書は、いきいき岩手支援財団HPに掲載されている。

令和5年度も、これまでと同様に①インターンシップの実施、②シンポジウム（ワーク・ライフ・バランス推進セミナー）の開催、③調査の実施（医療的ケア児の保護者を対象とする調査）を予定している。

1 令和4年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

令和4年5月27日	作業部会：令和4年度の予定について検討
令和4年12月16日	ワークライフバランス推進セミナー：「人生100年時代、キャリアの舵取りはあなた！！～社会と企業はあなたの応援団～」
令和5年3月31日	調査研究：「コロナ禍における子育て中の保護者の援助要請行動についての実態Ⅱ」「保護者に対する調査」（第一部）、「相談専門職に対する調査」（第二部）

2 令和4年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和4年度活動計画	令和4年度活動状況・成果・課題
①子育て支援環境が整った企業でのインターンシップの実施	・R2,3におけるコロナ禍のための中止によって、企業側との関係再構築が求められる。
②ワーク・ライフ・バランスに関するシンポジウムの開催	・ハイブリッド（対面+オンライン）にて開催したことで、対面参加者は少なかったものの、オンライン参加者が増え、大変盛況であった（逆に、会場での議論が盛り上がった）。今後もハイブリッドでの開催をしていきたい。
③子育てに関する調査・分析	・保護者を対象にした調査では、前年度と同様の調査票を用いたが、1年の経年変化が見て取れ、子育ての状況が制度

施策に影響されている様子が確認できた。

3 令和5年度の活動方針・予定

①子育て支援環境が整った企業でのインターンシップの実施

※ コロナ禍によりR2, 3は中止、R4は対応困難。今年度は、社会の状況を見て実施検討。

②ワーク・ライフ・バランスに関するシンポジウムの開催

※いきいき岩手支援財団主催のもと検討。

③子育てに関する調査・分析

※岩手県立大学社会福祉学部准教授・實方由佳先生と庄司（子育て支援部会）にて検討

※添付資料 ワーク・ライフ・バランス推進セミナーチラシ、参加者アンケート結果

～必要に応じて参考資料を提出願います。～

人生100年時代、キャリアの舵取りはあなた!!

～社会と企業はあなたの応援団～

開催日 令和4年 **12月16日(金)** 13:30～16:00 (13:00～受付開始)

場所 プラザおでって おでってホール

参加対象 経営者・人事労務担当者、行政関係者、子育て中の方、その他興味のある方

定員 会場100名またはZOOM参加

参加方法 申込フォームまたはFAX・E-mailにより事前申し込み(会場は定員になり次第締切)

スケジュール

13:00	受付開始
13:30	開会
13:35	第一部：講演
14:40	第二部：パネルディスカッション
15:55	行政説明
16:00	閉会

参加無料

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、内容を一部変更する可能性もございます。その際は、財団のホームページでお知らせ致します。



ZOOM 生配信

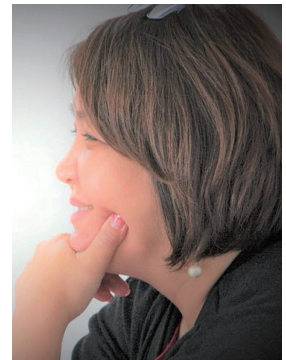
[第一部] 講演 講師 **兼子佳恵氏** (一般社団法人りとりと 代表理事)

演題 自分の『普通』がキャリアになる

人生に無駄なことはありません!!長い人生、「仕事」だけがあなたの「キャリア」ではなく、「子育て」や「介護」「看護」といった、「仕事」以外の経験も、あなたの「キャリア」を形成してくれます。震災後に立ち上げた NPO 法人での活動や自身の経験から、皆さんが「これなら自分にもできる」「今、自分にしかできないことがあるかもしれない」と自信をもって前に進むヒントを、そして、「社会」や「企業」は「応援団」として、どうあるべきかについて、お伝えしたいと思います。

プロフィール

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク(やっぺす)創設者。復興の担い手となる若者と女性の人材育成を中心に活動。2017年12月、社会変革に取り組む女性リーダーを表彰する「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞の第一回ファイナリスト8人に選出される。団体としては、地元根差した活動が高く評価され、平成29年度ふるさとづくり大賞最優秀賞(内閣総理大臣賞)を受賞。現在は、やっぺすの代表理事を退き、6月に一般社団法人「りとりと」を設立。差別のない地域社会を目指し、女性や次世代の人材育成、学びの場づくりに取り組む。



[第二部] パネルディスカッション

人生100年時代、「私らしく生きる」ために、「私」はどうしたいのか、「企業」は何ができるのか、「社会」は何ができるのか、それぞれの立場から、「私のキャリア」について考えてみましょう。納得できる毎日のために、納得できる未来のために、私はどうあるべきか、企業や社会はどうあるべきか。一緒に考えてみましょう。

パネリスト 佐々木 美 幸 氏 株式会社プラザ企画 サービス担当トレーナー

★令和元年度「子供と家族・若者応援団表彰」

【子育て・家族支援部門】内閣府特命担当大臣表彰

★いわて働き方改革 AWARD2017 最優秀賞

藤 尾 美 奈 氏 公益財団法人いきいき岩手支援財団

コメンテーター 兼子佳恵氏

コーディネーター 庄 司 知恵子 氏 岩手県立大学社会福祉学部 准教授

お申込・お問合せ先

(公財)いきいき岩手支援財団 総務・公表課

盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3階
TEL 019-626-0196 HP: <https://www.silverz.or.jp/>



令和4年度「ワークライフバランス推進セミナー」

12月16日(金) 13:30～16:00開催

◆参加申込書◆

ウェブまたはファックスにてお申込みください。
電話・E-mailによるお申込みの場合は、下記項目をお知らせください。

【申込フォーム】

直接お申込み
ください。

こちらのQRコードより
申込フォームにお進み
ください。



お申込み後、事務局から
参加用 URL をメール送信

セミナー3日前までに、メールで
参加のためのURLとパスワードを
送信します。

セミナー当日
URL から参加

当日は、参加URLよりパスワ
ードを入力いただき、Zoom
でご参加ください。

【FAX 申込書】 添書不要。このまま送信してください。

FAX : 019-625-7494

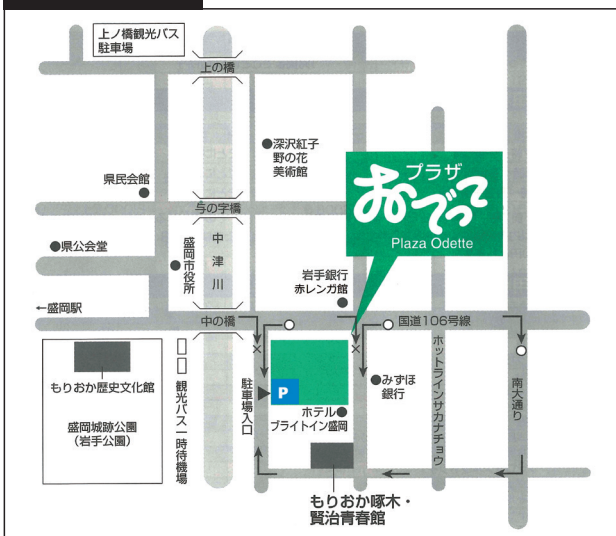
事業所名		お名前 (代表者)	
電話番号		参加希望	会場 ・ オンライン
E-mail		@	
託児	あり ・ なし	参加人数	名

申込締切：令和4年12月12日(月)

※託児希望の場合は、12月5日(月) 締切

申込先：(公財) いきいき岩手支援財団 TEL : 019-626-0196 E-mail : wlb@silverz.or.jp

会場案内図



プラザおでって おでってホール

盛岡市中ノ橋通一丁目1-10 TEL : 019-604-3300

◆ご来場の際は、なるべく公共の交通機関をご利用願います。

【バスのご案内】

JR盛岡駅前バスのりば6番のりば「盛岡バスセンター行き」に乗車、または16番乗り場から「盛岡中心市街地循環バスでんむし左回り」に乗車、いずれも「盛岡バスセンター前・13番のりば」下車、徒歩2分です。

【お車で越しの方へ】

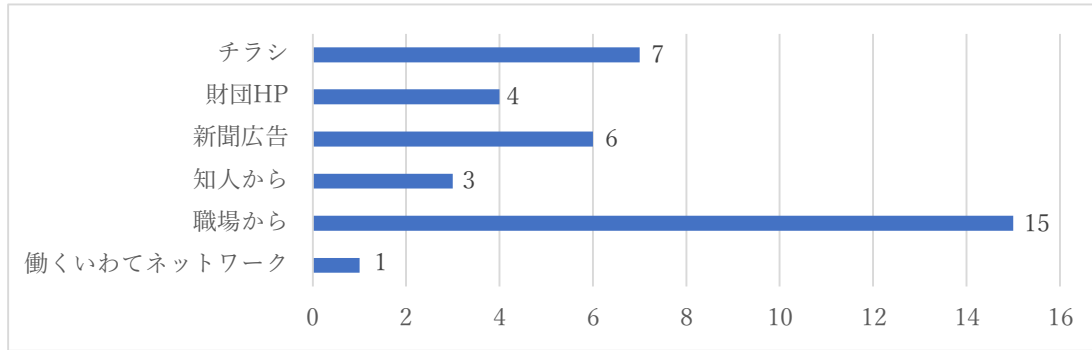
プラザおでって地下駐車場(有料)が満車の場合は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

【新型コロナウイルス等感染症予防対策として以下についてご注意ください】

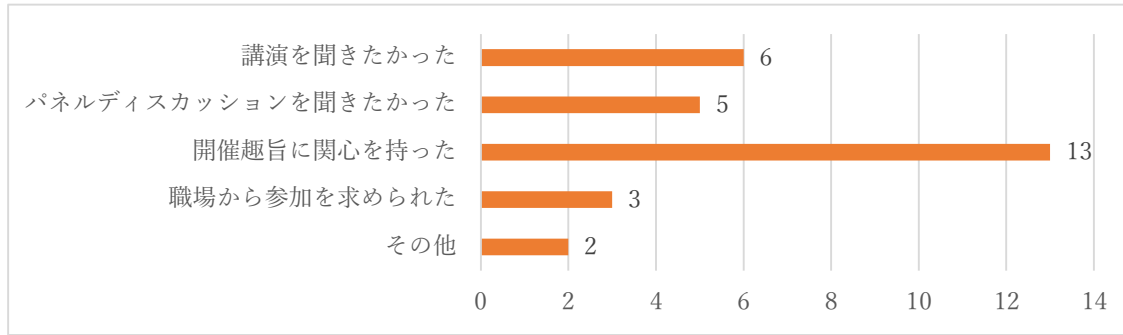
- 本セミナーは、感染拡大防止策を講じて開催します。
- セミナー当日はお出かけ前に体温を測り、発熱等の風邪症状がみられる場合は参加を見合わせて下さい。
- 万一、参加者に感染が確認されると他の参加者の皆様の連絡先などの情報提供を保健所当局から要請される場合があります。当日は氏名、連絡先等を確認させていただきますのでご理解とご協力をお願いします。

令和4年度「ワークライフバランス推進セミナー」アンケート

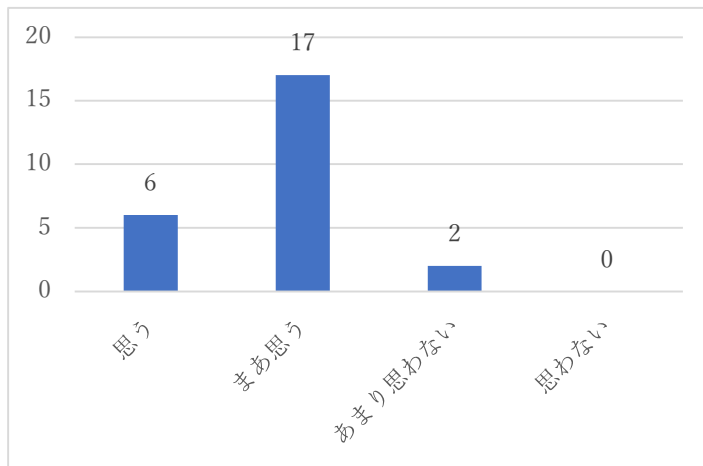
1. 本セミナーの情報はどこで得ましたか。



2. 本セミナーに参加しようと思った理由をお聞かせください。



3. あなたの職場では、子育て支援の環境が整備されていると思いますか。

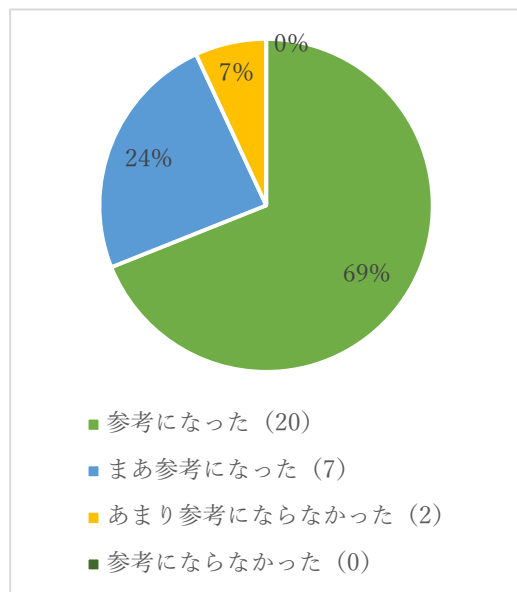


【理由】

- ・公務員だから
- ・制度は整っている
- ・看護休暇など取りやすい
- ・制度の充実、話し合う・理解する環境である。
- ・年休が取得しやすい、子育てに配慮されている。
- ・小規模の会社なので、相談すれば対応してくれる期待があるが、制度としては仕組みがあるわけではない。

- ・子育てをしている方がたくさんおり、それに対して理解のある職場だから
- ・総務が相談窓口になり、育児休暇を取得しやすい環境にある。復帰後も育児と仕事の両立できるような勤務時間の調整をしている。
- ・急に職員が子どものことで休みが必要になっても対応できているから
- ・個々の状況に合わせて働き方を選択できる制度があり、制度の利用が進んでいるから
- ・子育て世代が少なく、実際に利用する人は少ないが、制度は整備されている。
- ・規定等ある程度整備されているが、周知が十分でない。

4. 本日のセミナーは参考になりましたか。



【理由】

- ・女性のキャリア形成に関する仕事をしており、自身も8歳の子どもをもつシングルマザーで、親の介護の問題を抱えている。
- ・子どもを育てる自分とパネラーの方々の思うことが重なり、共感できることも多かった。
- ・生き方、背中を押された感じ。学びあい、繋がりあい。
- ・キャリアと気負わず、必要なことを必要な時に実施してきた結果、キャリアというものができた良い事例だと思う。
- ・兼子先生の講話からは、地域のために自分から考えて動いていくパワーが得られたため。第二部のパネルディスカッションからも、人生を長い目で見て、どう働いていくのか考えさせられました。

- ・本音の話を聞くことができた。
- ・女性として、刺激を受ける言葉や内容がたくさんあったセミナーでした。女性として、そして一個人としてのライフワークバランスを大事にしながら、これからの働き方の参考になりました。
- ・子育てと仕事を両立されているかた（ご本人）の話をお聞きすることができたから。
- ・現実的で問題解決的な話を聞きたかった。
- ・私は結婚していないので、子育てよりは、看護、介護の方の仕事との両立をテーマにしたワークライフバランスを聞きたかった。
- ・プラザ企画様のパイオニアである佐々木様の話はあったが、雇用形態が複数あるとだけの紹介で、具体的な例を聞きたかった。

5. 第一部の兼子氏の講演の感想をお聞かせください。

- ・目の前に現れた問題を自分事として捉えることで、これほどたくさんの社会貢献ができるのかと驚いた。行動力、自分も行動することで変えられることがたくさんあるのではないかと気づいた。
- ・やっぺす（いっしょにやろう）…集まった人の力は凄いですが、兼子さんの集める、巻き込む力凄いですね。でも諦めなければいいですね。
- ・あきらめなければ失敗はない。出来ない理由を探さない、という前向きな姿勢が素晴らしかったです。やらされていると思わずに、自らやることが前向きな行動に繋がるのかなと思いました。
- ・行動力がすごい。思ったことを形にするのは難しい。行動力が必要だが、「自分が！」という人も少ない中で、動き、コミュニティ広げていく姿が素敵です。
- ・いろいろな経験をされていて、前向きな方、どんな経験からでもプラスにして前向きに頑張る方。
- ・自分の想いを言葉にする、まずは実践することの大切さが分かりました。
- ・自分の強みを知り、行動を起こすことが生きる上で大切であることを知った。どうしたらでいるかを考え、出来るまであきらめない。
- ・様々な体験を経て、出来ないことはないという肝が据わって突き進んでこられたことを感じました。そこには、多様性を尊重する大切な視点をお持ちなので感銘しました。

- ・とてもパワフルで、庄司先生がおっしゃる通り。全ての内容を理解することができなかった。こうなれば良い、あんなれば良いと思うことはいっぱいあるが、自分で変えようと思わない自分。団体で取り組むなんて出来ないと思うが、自分の周りのちっちゃいことから変えてみようと思った。
- ・すごいなーと思いました。行動力が大事なんだと思いました。あまり知らないで来たので、なるほどと思うこともありました。
- ・仲間に感謝し、高め合っていることに同調。自分の強みを知る、認めることの必要性。
- ・思うことはあってもなかなか行動を起こすことは難しいと思っていました。兼子さんのお話を聞いて、勇気が出ましたし、行動に映せるような気になりました。「他人のせいにしてしまう」は自分も気を付けていこうと思います。今日感じたことを少しずつ自分の中に取り入れて前向きに変わっていきたいと思います。
- ・いろいろな人達と関わるということが、人生にとっても活力を与えてくれるということを教えてもらったなと思います。私自身、自分から積極的に人と関わるのが苦手なので、これからは少しでも関わることを意識して生活していけたらと思います。
- ・素晴らしい実践力だと思います。
- ・人のせいにしない…同感です。すべての事柄は、自分自身の考え方ひとつだと思います。覚悟をもって限りある人生を過ごしたいと思います。
- ・質問にお答えいただきありがとうございました。仕事を始めるにあたり、深く考えつつもフットワーク軽く動かされて感銘を受けました。
- ・何事も、自分の意思、目的、行動力が大切だと感じました。
- ・今回、兼子さんの講演を聞かせていただくのは初めてだったのですが、これまでの活動内容やご自身の経験をたくさん聞かせていただき、働くことや行動を起こすことに対しての意識が高まったと感じています。兼子さん自身、人生の中で苦しい波がいっぱいあったと思うのですが、それをただ悲観的に内に秘めて留まるのではなく行動に起こせること、すごいことだと思います。私も一個人として、これからの人生をどう生きていくかを見つめ、やってみたいことは諦めずに形にできるよう日々を過ごしていきたいです。貴重なお話をありがとうございました。

6. 第二部のパネルディスカッションの感想をお聞かせください。

- ・働く女性が感じている、細かな感情のことまではっきりと言ってくださり共感した。どのような立場・仕事内容であっても、同じ悩みを抱えているのだなと改めて感じ、女性が声を挙げて、その人数を増やしていくことが社会を変える力になる。自分もその一人だと思った。
- ・藤尾さんのお話、その通り。同じ思い状況の女性がたくさんいると思いました。プラザ企画さんの取組も、佐々木さんが実験台になって始まったとのことでしたので、どの会社でもできると思いました。
- ・長いスパンでワークとライフを考えてみるというところが目からウロコでした。今出来ていないなと感じて、ワークライフバランスって何だ？と思っていたので、今できなくてもどこかでバランスが取ればいいのか、と思えるようになりました。
- ・共感しました(藤尾さんの話)。プラザ企画の取組も社員のキャリアに親身になって取り組んでいてすごいなと思いました。庄司さんのお話も参考になりました。企業の中で相談できる存在って必要ですね。

- ・プラザイン水沢の雇用形態を自分で選択できる仕組みが良い。非常勤やパートから戻れるのは素晴らしいと思います。
- ・育児中の方から、直接不安なことなどについてお話をお伺い出来て良かった。まだ、男性の育児休業は取得しにくいイメージがあるので、変われば良いと思った。
- ・仕事と子育てとのバランスは永遠のテーマで、すっきり解決することではないと思うが、それぞれがどうなりたいか、支える側もどうすれば良いかという思いを持っただけでもいいんだなあと感じた。
- ・子育てする女性の就業環境の課題がそのままですね。個々の能力を活かせる条件整備を！痛快なやりとり！
- ・有意義な時間でした。来てよかったです。ありがとうございました。
- ・私も母であるので（妻ではなくなりましたが）、共感する部分がたくあんありました。普段の生活でディスカッションすることもなく、コロナ禍で他人と話す機会も少なくなっているため、久しぶりに良い刺激になりました。
- ・私は結婚していないので、あまり関係ないかなと思いつつ、でも結婚している方たちからしてみると、そうなんだろうなと思いつつ聞かせていただきました。
- ・より柔軟な働き方を推進していく中では、社員の理解と協力が必要であり、トップがワークライフバランスに対して強い思いをもって、企業文化を創り上げていくことが重要だと思う。
- ・プラザイン水沢の取組がとても興味深い。経営トップの英断です。
- ・時代に合わせて働き方を柔軟にできるような岩手にしたいです。声を伝えること。仲間づくりをすること…
- ・具体的な内容で分かりやすかったです。自分と重ね合わせて考えることができました。
- ・未婚の私にとって、働く女性の声を直に聴くことができたことは貴重な時間でした。女性としての気持ちは分かってあげられても、母であることの大変さや子育てをしながら働くことに対しては、実際にその立場になってみないと分からないことばかりです。言葉では分かったようなことを言っても、それで寄り添えているかと言われればきっとそうではないと思います。なので、今回のように子育てに奮闘し、働く母でありながら働く女性の声を聞くことができ、その立場の方たちの環境を守るためにはどうしたら良いのだろうかと考えることができました。自分一人では見えない角度の声を聞かせていただき、ありがとうございました。

7. 全体を通しての感想や、日頃、子育てと仕事の両立について思うことをお聞かせください。

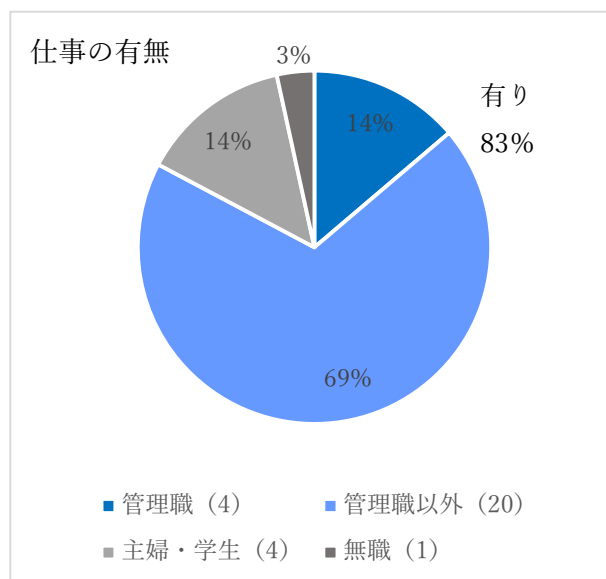
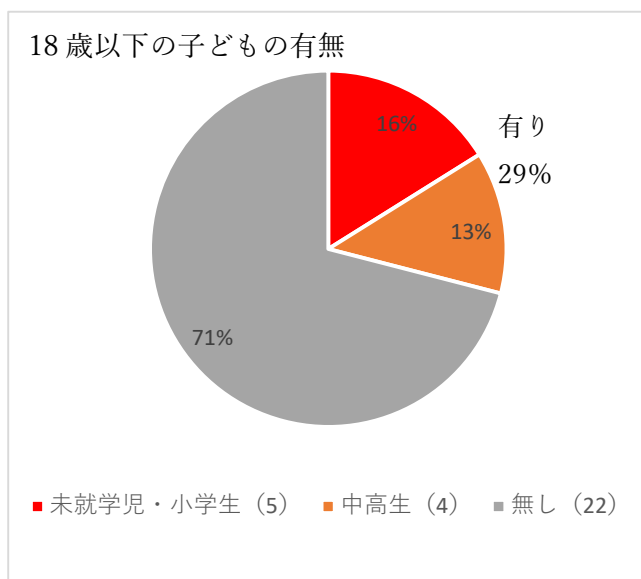
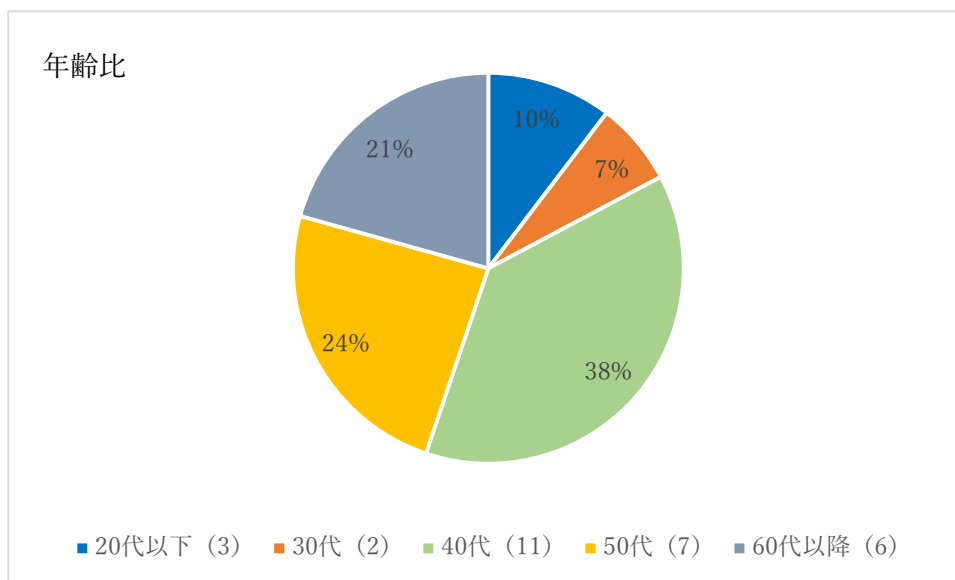
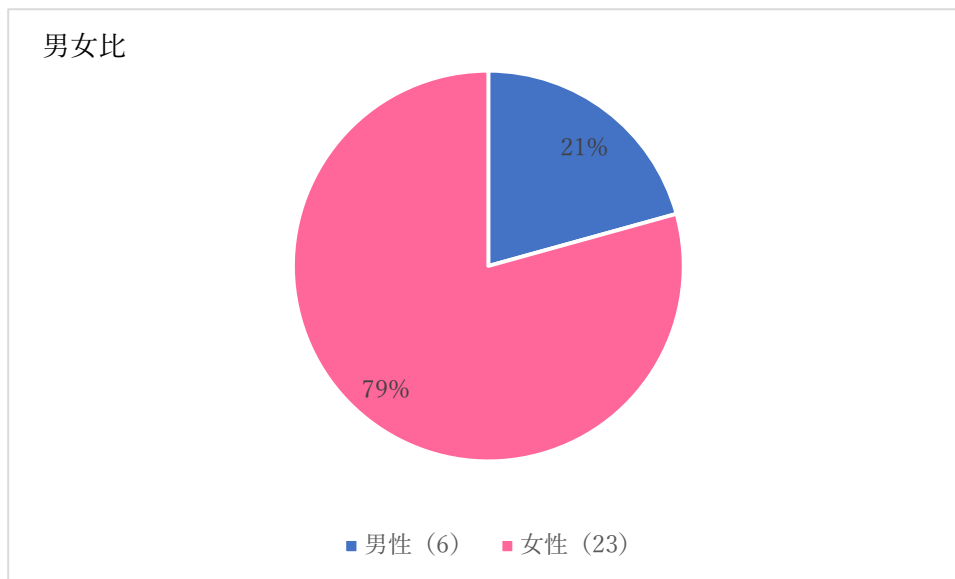
- ・最近、様々な女性経営者と会う機会があり、両立するために辞めたこと、これだけはやると決めたことは、と聞いています。答えは共通しているな～と思います。もっと共有していける機会が必要だと感じています。
- ・両立というのは本当に大変ですが、今やれることをやっていくのが大事かなと思います。
- ・大変だと思いました。自分は専業主婦だったので、働きながら子育ては、本当に考えていかなければならないと思います。
- ・質問できなかったのですが、子育てと両立して雇用形態や職場を変えてキャリアを形成していく。女性はライフステージと向き合いながらキャリアを作るが、一方で藤尾さんが感じるようなことや年齢のリミットがある。また「このままでいいや」とセーブしたり、踏み出す前に諦めたり。企業として、子育てひと段落世代にどうアプローチしたら良いのか悩みます。

- ・父親との方が属する団体や組織が、その人が両立したいことを支援できる仕組みがあり、実際に動かすようになれば良いですね。
- ・祖父母の子育て参加は大きいと思う。
- ・私はシングルマザーですが、実家の両親に手伝ってもらって子育てをしています。これが両親の手助けがないと考えると、仕事と子育ての両立はさらに大変なことです。子育てをするために仕事を頑張る→疲労がたまる→育児放棄、にならないように、自分なりに手抜きをしています。社会に出ること、今の仕事に自信を持っていたり、やりがいを感じていたり、必要とされていたり、そのようなことが生きていく活力にもなるので、私の中では自分を高めていくことが子育てとの両立に繋がっていたりもします。私の勤務している会社は、子どもの行事や呼び出しにはとても寛大で、社長は嫌な顔をせず「わかったよ」と言ってくれるので、甘えられるうちは甘えて、仕事で恩返ししていきたいと思っています。
- ・育児をしながらも女性の能力をもっと生かしていける働き方（固定した労働時間評価ではなく）を通して、待遇の改善を図れないものか。そういった社会を作りあげていかなければならない。
- ・子どもができたとき、地域社会で、勤務先で、子育てへの支援をどのくらい出来るかが鍵となるが、まだまだ日本は取組が遅れていると思う。
- ・子育てについては、昔よりずいぶん変わり、男性も子育てに関わるようになったと感じていますし、女性の仕事への進出も進んできていると思いますが、もう一歩、男性自身の考え方を時間をかけて変えていく必要があると思います。
- ・私も子を持つ母ですが、子育てと仕事の両立はかなり大変だと感じています。職場の理解が重要であることはもちろんですが、家族（特に配偶者）の理解と協力も必須。これがまた大変です！笑
- ・キャリア形成についての話をもっと聞きたかった。

8. 本セミナーに今後取り上げて欲しい内容があればお書きください。

- ・地域の存続のためには、若い女性が働きたい職場が必要であり、結果として企業の利益に繋がるということを経営者の皆さんにもっと意識してもらえるような内容を希望します。
 - ・キャリア支援を引き続きやって欲しい。
 - ・同じテーマ
 - ・今日のようなテーマ
 - ・もっと取り組み内容を深く掘り下げて紹介していただけるとありがたい。取り組みの結果、成果が出ていること。失敗したことなど。
 - ・男性社員を対象に、「仕事のキャリアと家庭生活の両立（家事・育児）」について、職場教育を実施している会社があれば取り組みについてお話をお聞きしたいです。
- ※職場として、男性（上司も若手も）の意識改革を積極的に行っている会社はありますか？
- ・教育、障がい者の支援について
 - ・ワークの部分で学生やセカンドキャリアなど、両端の部分にフォーカスを当ててみるのはどうでしょうか。
 - ・人生100年時代の新しい働き方。高齢になっても働くには？

アンケート回答者のデータ (29 名)



いわて未来づくり機構 地域公共交通作業部会の実績報告・活動計画

テーマ：地域交通のサステイナブル化に向けた取組の推進

座長：宇佐美誠史

担当団体：岩手県立大学

報告要旨

県内自治体がデータを活かした公共交通政策を推進できるように、地方の状況をふまえた上で安価な公共交通のキャッシュレス決済から得られたデータの活用までを一元的にこなせるシステムを開発し続けている。これまで、県内いくつかのフィールドで実験的に活用してきた。昨年度は、滝沢市のタクシー活用実験で乗降データの取得、可視化をおこなったり、矢幅駅JR改札口付近に設置するバス運行情報を伝える電子ペーパーのシステム構築をおこなったりした。そして、年度終盤からは某鉄道会社の企画切符の電子化とデータ取得・活用を目指したアプリの開発を始めた。今年度の取組みの多くは来年度も継続して実施する予定である。

1 令和4年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

令和4年9月	滝沢市タクシー活用実験
令和4年9月14日	一般社団法人JCoMaaS「MaaSの部屋」で講演（専門分野でのPR）
令和4年10月18-21日	CEATEC2022（幕張メッセ）出展（関連する多くの企業、団体などにPR）
令和5年2月14日	北いわて産業・社会革新推進コンソーシアムシンポジウム（市町村や企業・団体にCOI-NEXTの取組と研究成果のPR）
令和5年1月～3月	電子ペーパーでの運行情報提供システムの構築、鉄道向けアプリ開発

2 令和4年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和4年度活動計画	令和4年度活動状況・成果・課題
①システム開発とフィールド適応	翌年度に持ち越した内容はあるが、概ね予定していた研究は行えたと思われる。
②各自治体の公共交通政策の支援	①滝沢市のタクシー活用実験で当方の公共交通乗降管理システムRabiPeoCaを適応、ICカードを使った乗降や移動実態の可視化。矢幅駅設置予定の公共交通運行情報を提供する電子ペーパーのシステム構築、鉄道会社向けの企画切符の電子化。
③情報提供・PR	②滝沢市や矢巾町、雫石町等、公共交通会議の委員として関わっている自治体の公共交通政策支援。 ③CEATEC2022での展示、北いわて産業・社会革新推進コンソーシアムシンポジウムでの講演等で、広く研究をPR。

3 令和5年度の活動方針・予定

矢幅駅に設置予定の電子ペーパーの稼働状況を確認し、取得した運行データは望ましいダイヤの検討材料としたい。鉄道会社向けの企画切符の電子化は、モニターを募って利用してもらいデータを取得・可視化したい。昨年度に続きCEATEC2023へ出展、県ふるさと振興部と協働して県内自治体へのPRをしたい。自治体の公共交通政策支援は適宜実施する。

小さな交通需要に対応した 交通サービスの検討

実証実験結果と地域内交通の検討について

〈第15回滝沢市地域公共交通会議〉

令和5年3月13日（月）

岩手県滝沢市

検討の目的

地域公共交通網形成計画（平成29年策定）

公共交通の利便性向上プロジェクト

施策1-2 市内移動における利便性向上

②小さな交通需要に対応した交通サービスの検討

小さな交通需要が分散する中山間地域において、誰でも安心して外出できる環境を確保するため、既存の交通資源を活用し、効率的な交通サービスの導入を検討する

滝沢市地域公共交通網形成計画



平成29年9月

滝沢市

3年度に柳沢・姥屋敷地区を対象とする実証実験を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となり、令和4年9月に実施しました

<運行の目的>

小需要地域における
最大の移動需要を把握するため

<運行期間>

令和4年9月の毎週月・水・金曜日
8～12、13～16時（1日7時間運行）

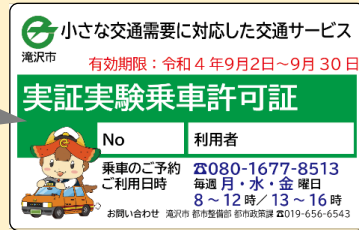
<運行方法>

タクシー車両を時間制運賃で貸切
（利用者の運賃は無料として運行）

<乗車方法>

事前に利用申請をした方が直接予約

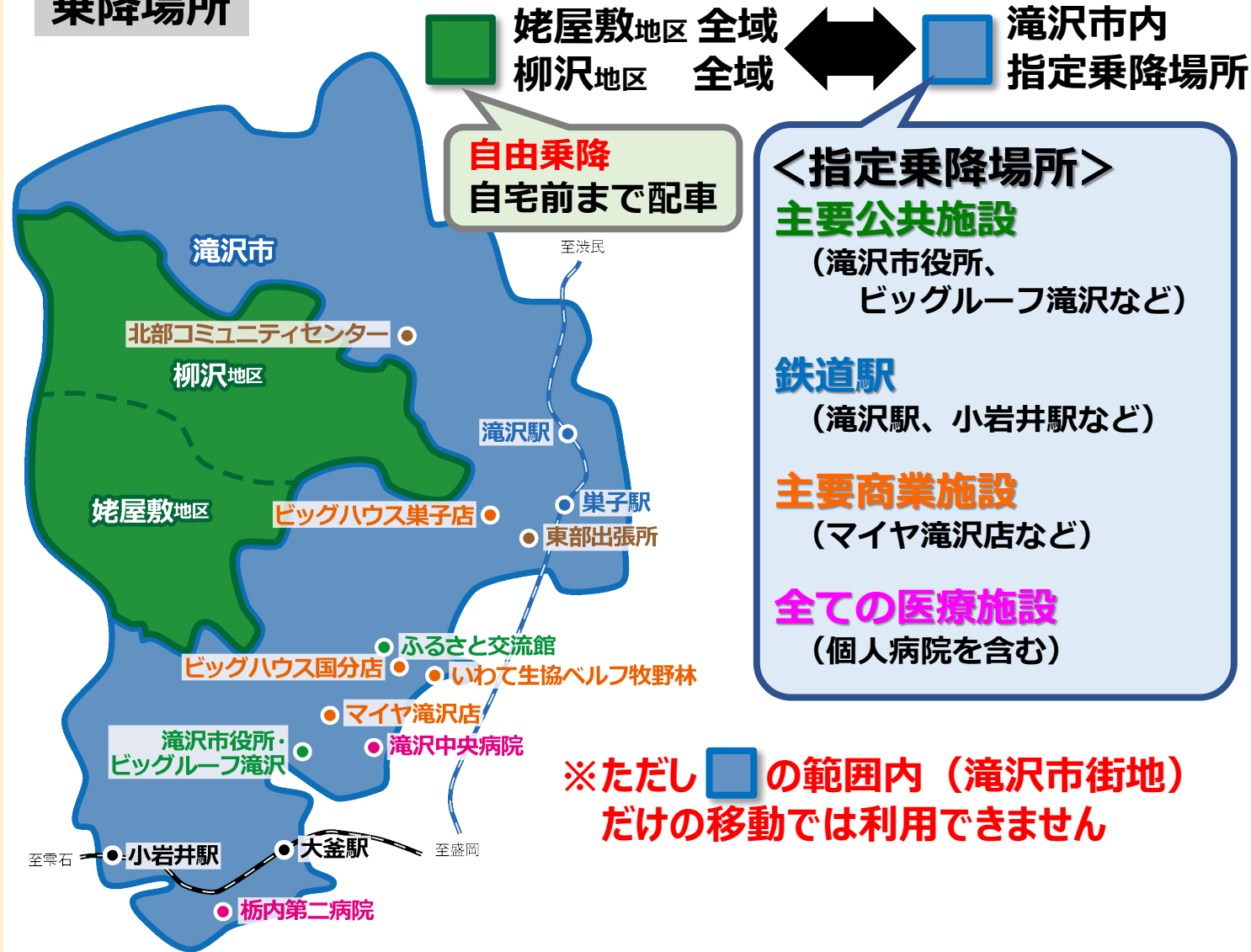
申請者に
乗車許可証を発行



<運行事業者>

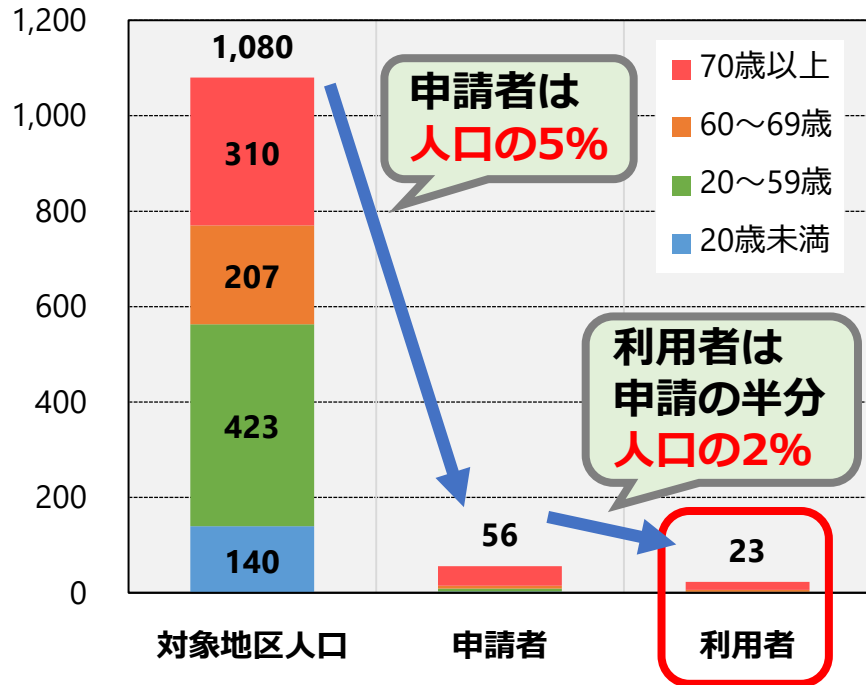
柳沢地区：（有）滝沢交通、
（有）みたけタクシー
姥屋敷地区：岩手中央タクシー（株）

乗降場所



- ・ 実証実験利用者は**対象地区人口の2%程度**となり、その大部分は**60歳以上**でした
- ・ 利用者の半数以上は**運転免許を保有し**、普段は公共交通を利用しない方でした

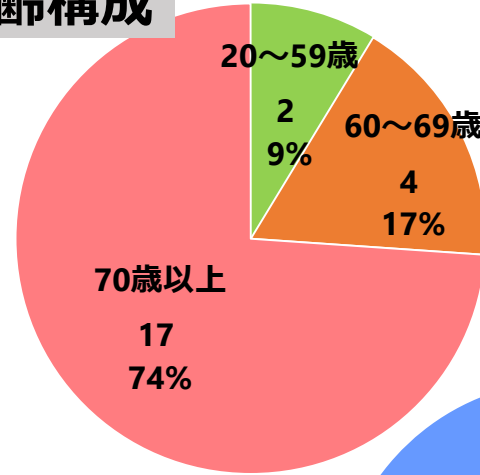
地区人口と利用者数



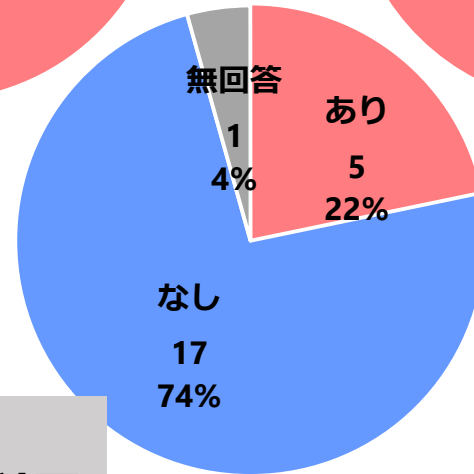
	地区人口	利用者	割合
柳沢地区	792人	17人	2.1%
姥屋敷地区	288人	6人	2.0%

(令和4年9月現在)

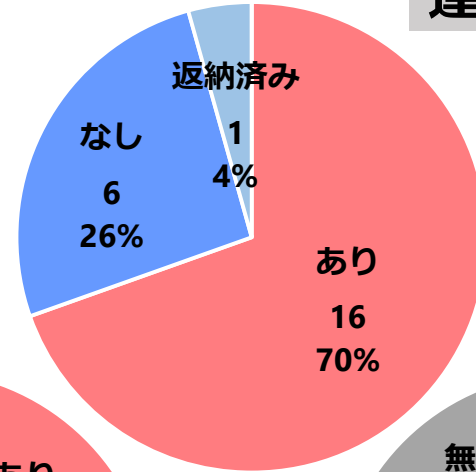
年齢構成



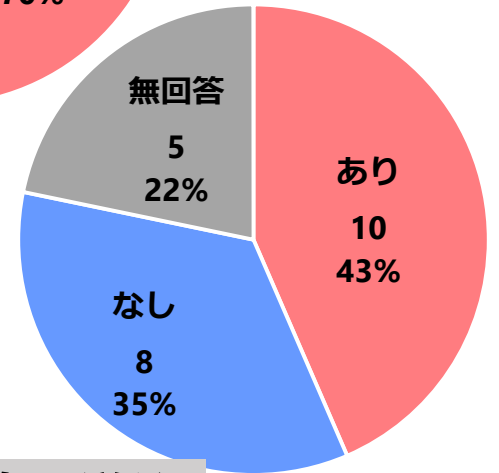
福祉バス 患者輸送バスの利用



運転免許の有無



家族の送迎



実証実験利用者 N=23

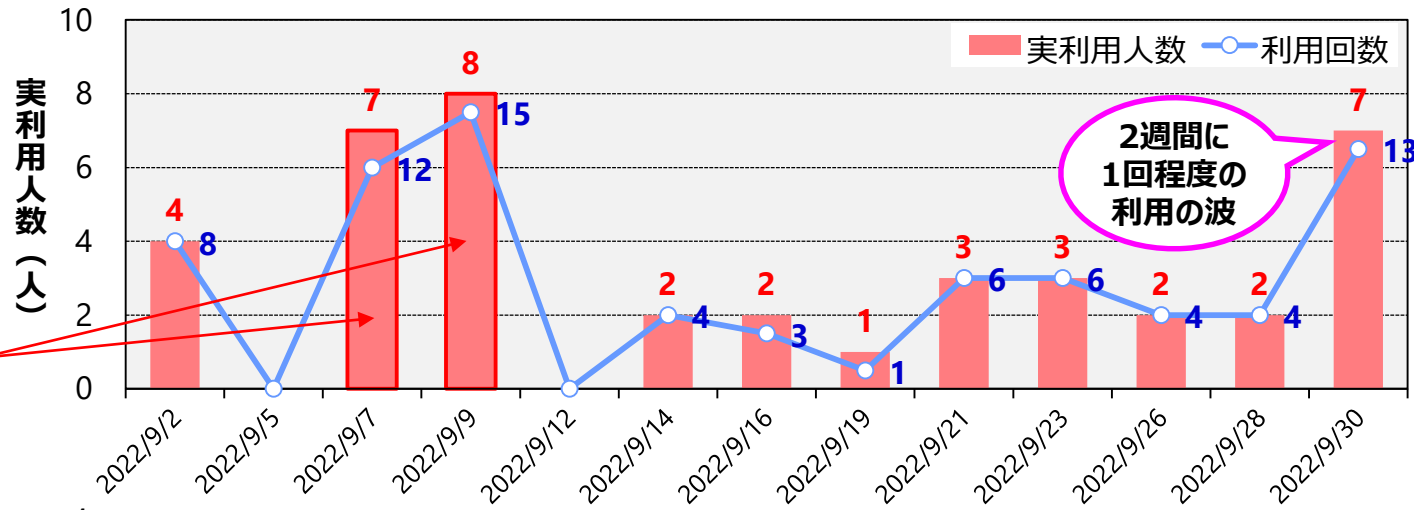
- ・ 利用数は**最大1日8人（4往復）**と少なく、**2週間に1回程度の波がありました**
- ・ **5回（3往復）以上の利用は両地区で6人とさらに少なく、限定的な利用でした**

利用状況

柳沢地区

実利用者数 17人
延べ乗車回数 76回

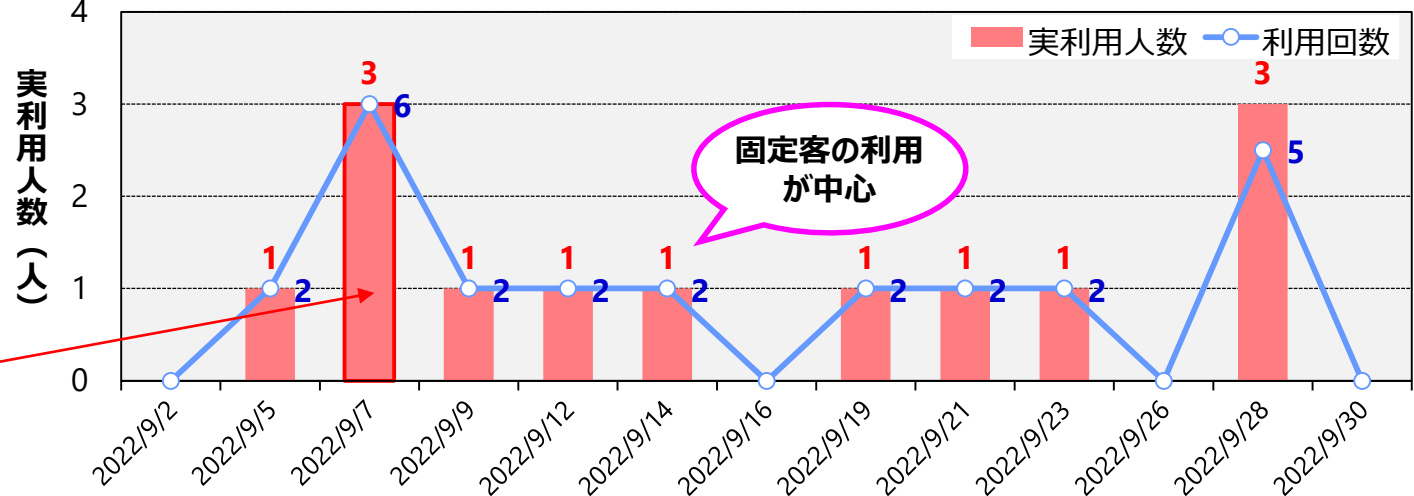
9/7・9は
利用促進のための
おでかけイベント開催日
9/7：3人乗車
9/9：3人乗車



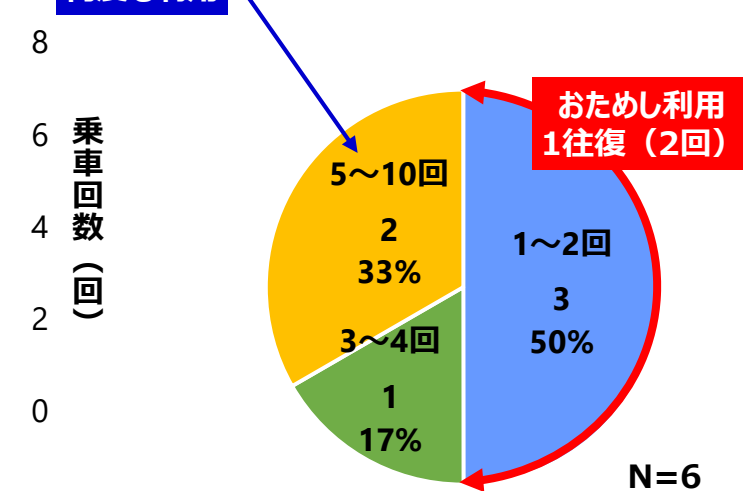
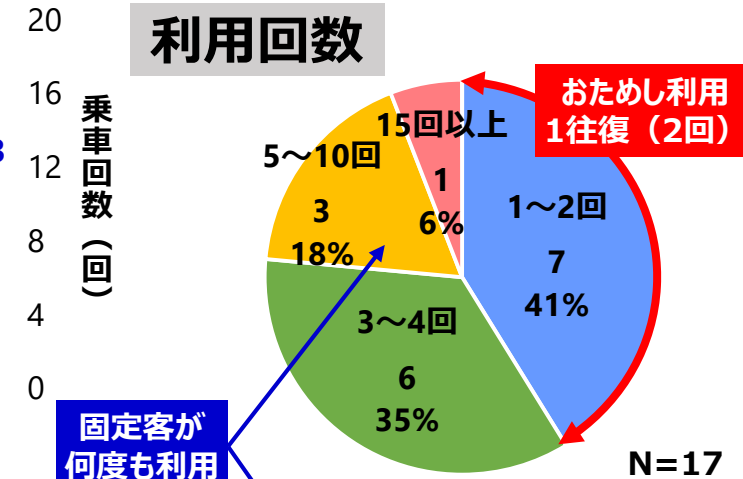
姥屋敷地区

実利用者数 6人
延べ乗車回数 25回

9/7は
利用促進のための
おでかけイベント開催日
9/7：2人乗車



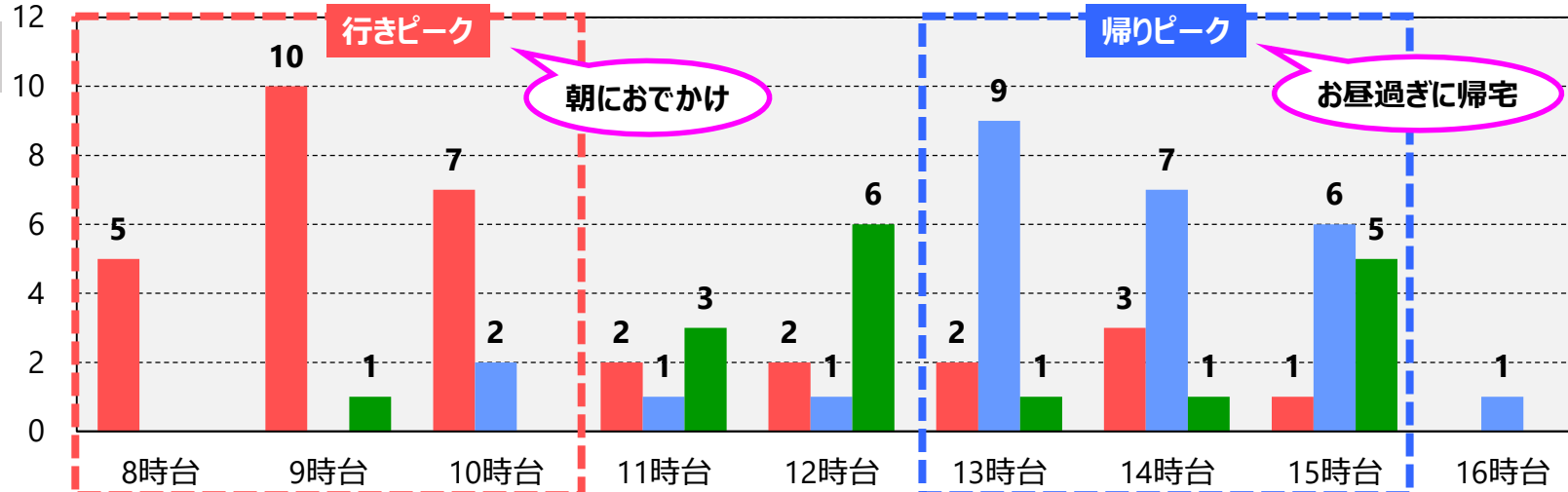
利用回数



・ 地区によって外出の傾向は異なるものの、利用時間が近い方同士で効率化を図れることが分かりました

乗車時間

柳沢地区



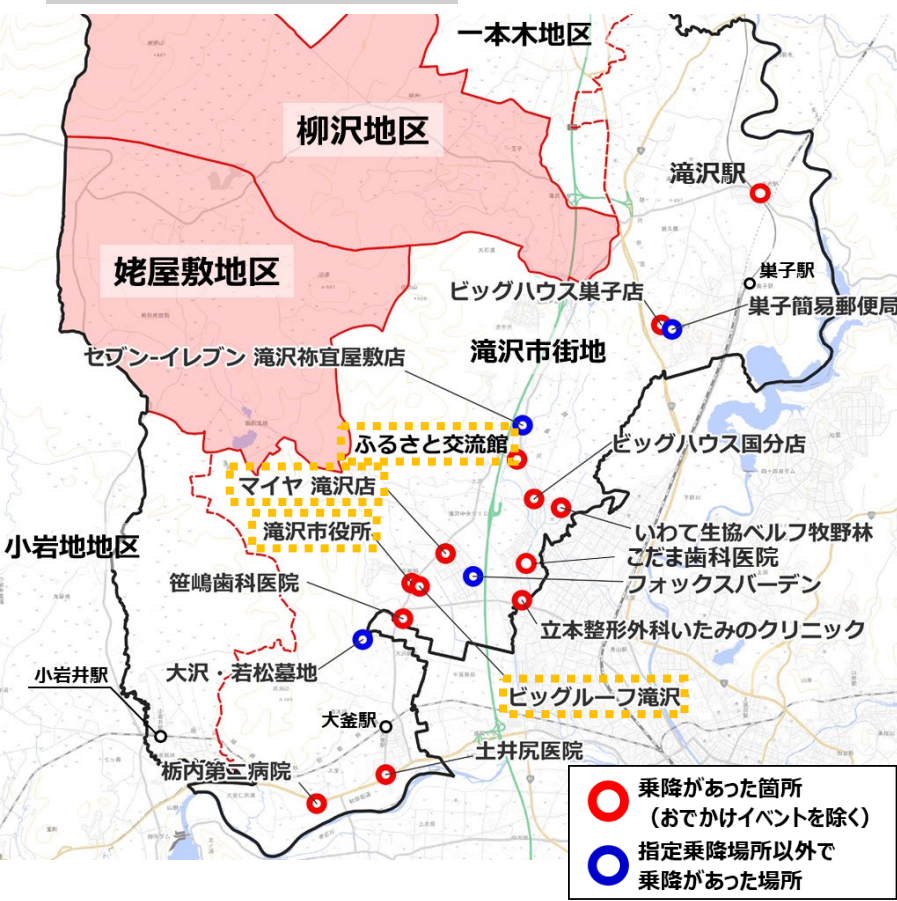
行き・帰りピークにおいて
利用時間が近い方同士で
タクシーを相乗りすることで、
移動の効率化が可能

姥屋敷地区



事前に時間を調整して
午前中にまとめて移動
することで、効率化が可能

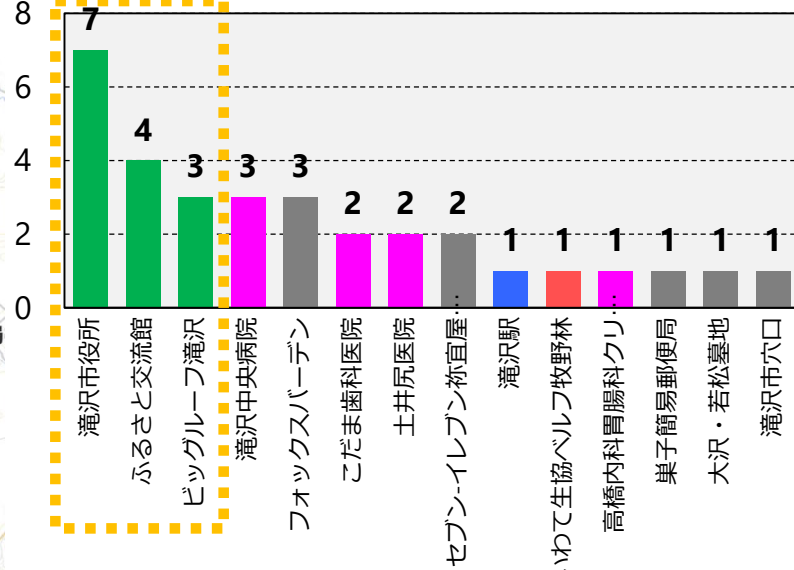
乗降場所の傾向



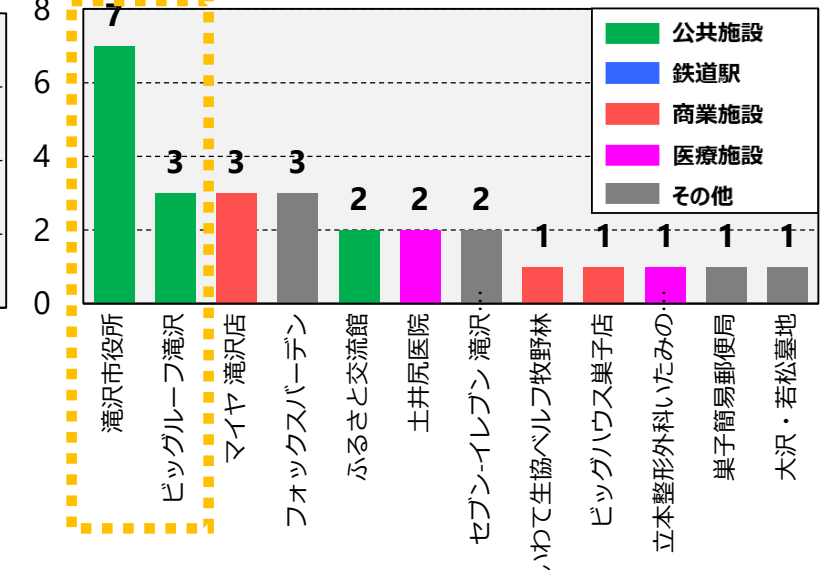
○ 乗降があった箇所
(おでかけイベントを除く)
● 指定乗降場所以外で
乗降があった場所

・ 公共施設や商業施設での乗降は集中していますが、医療施設での乗降は分散していました

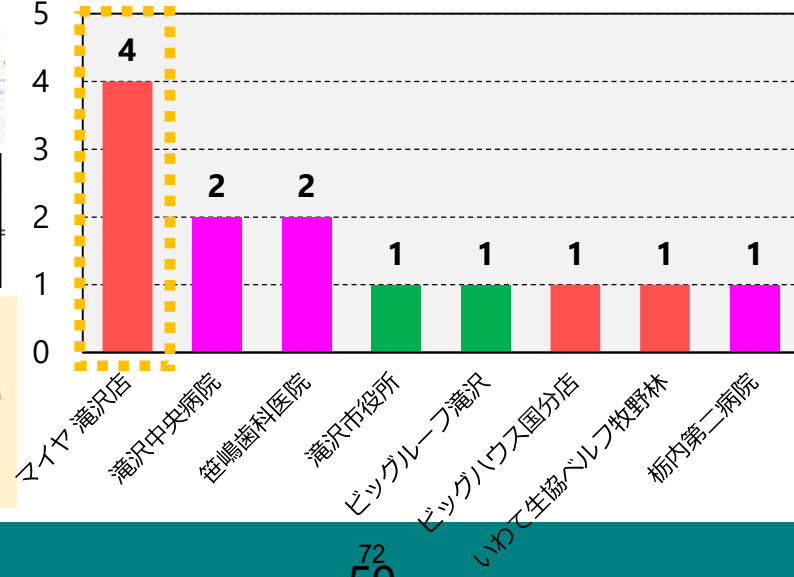
市街地側での降車場所<柳沢地区>



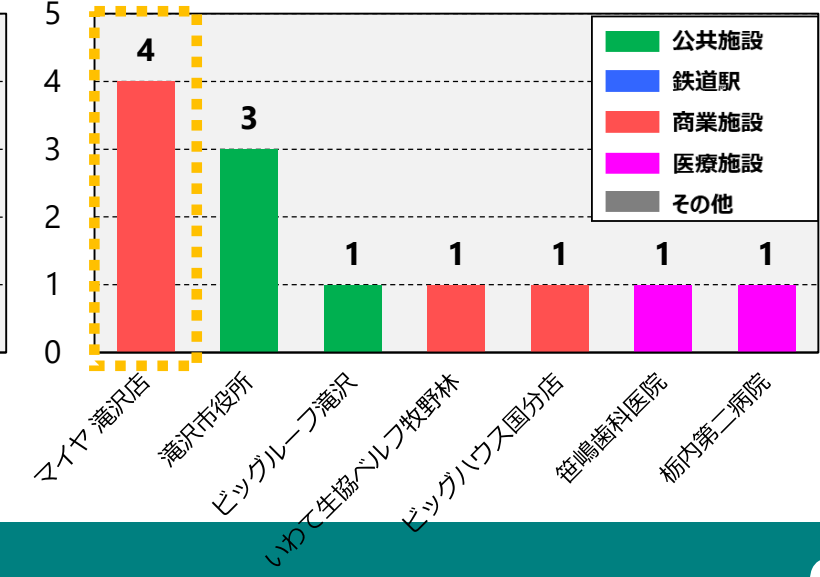
市街地側での乗車場所<柳沢地区>



市街地側での降車場所<姥屋敷地区>

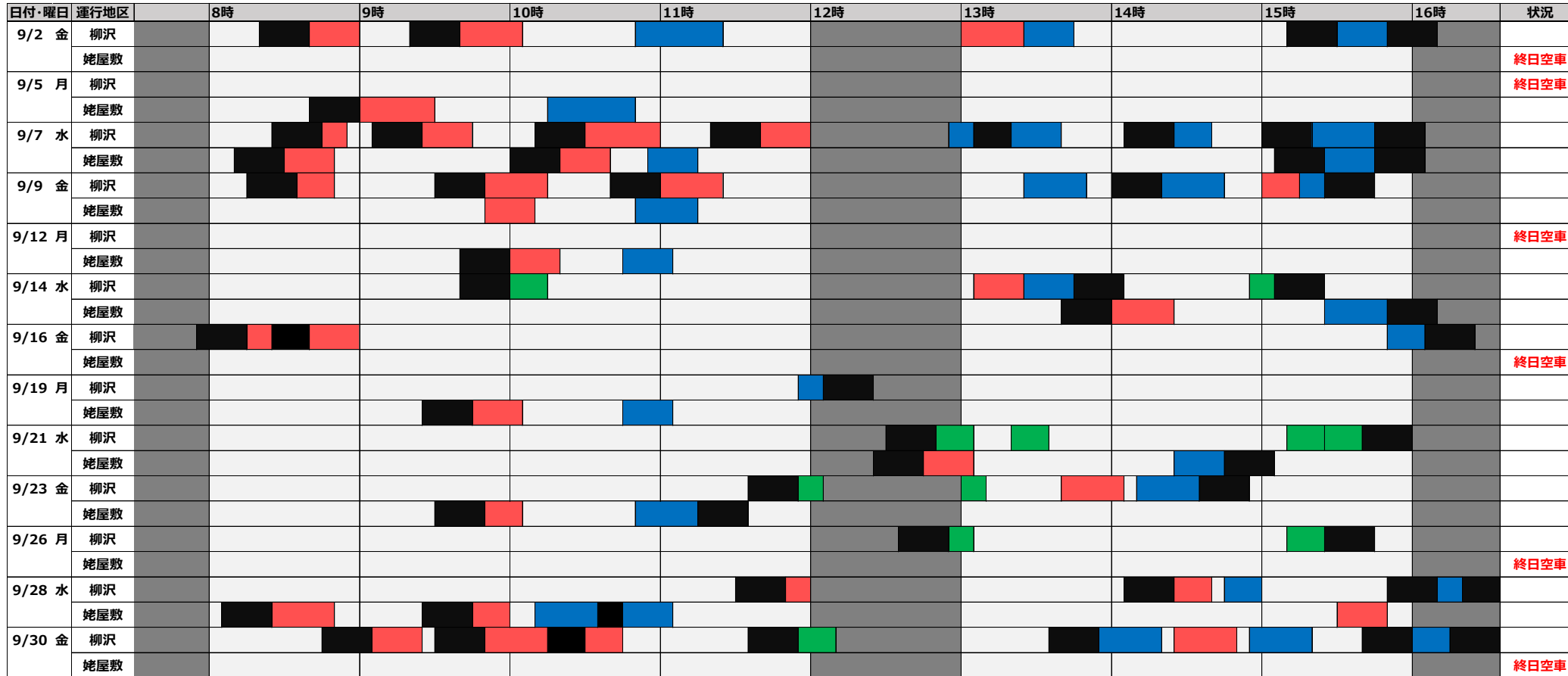


市街地側での乗車場所<姥屋敷地区>



・平均稼働率は、柳沢地区が15.7%、姥屋敷地区が9.0%と低く、
小需要地域・市街地間を跨ぐ回送の負担が大きいことが分かりました

稼働状況、配車回送の状況

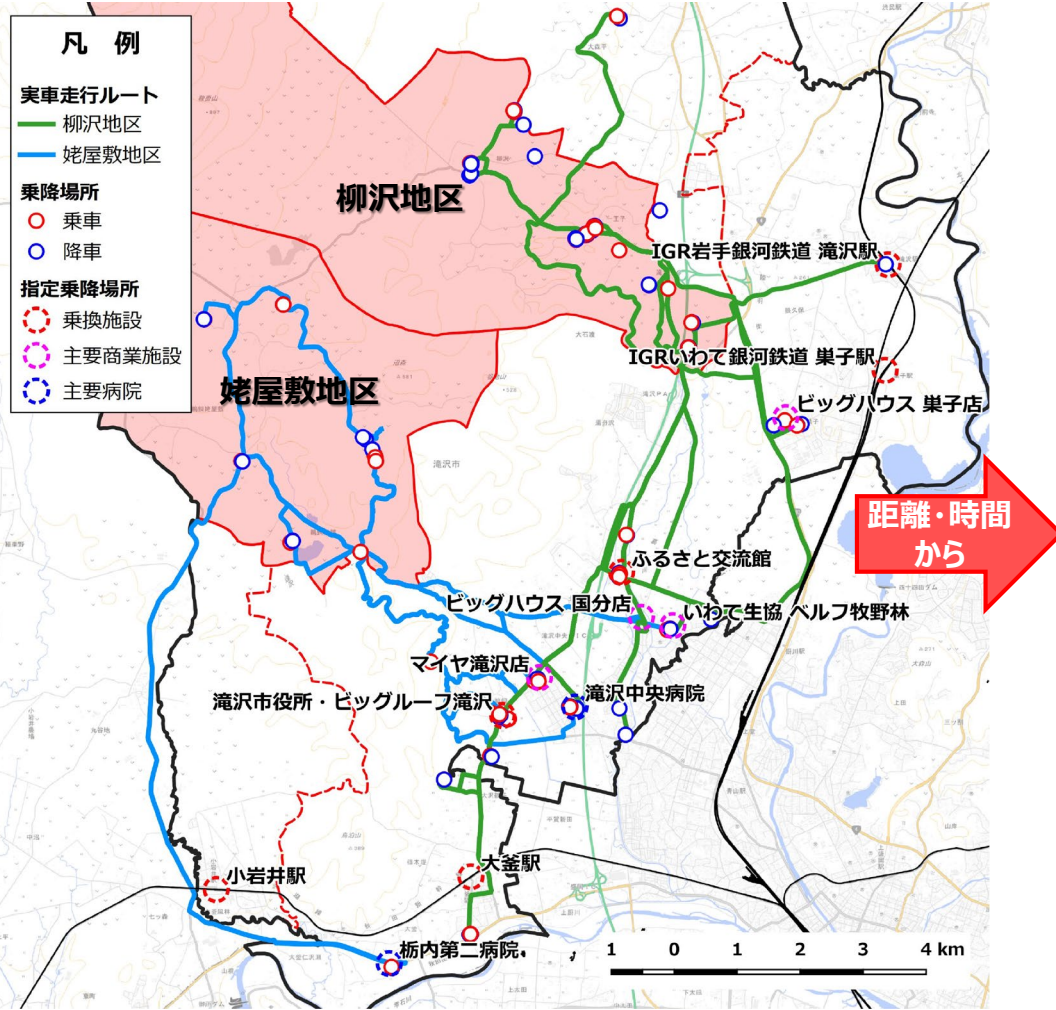


<平均稼働率>
柳沢地区
 終日:15.7%
 AM:11.4%
 PM:21.4%

姥屋敷地区
 終日:9.0%
 AM:12.0%
 PM:4.9%

- 市街地方面（行き）
- 小需要地域方面（帰り）
- 小需要地域内
- 時間外
- 空車
- 想定される小需要地域・市街地間の回送

- ・ 実証実験の運行には、**1地区あたり約50万円**の時間制運賃がかかりました
- ・ 走行距離・時間より実車相当の運賃を算出し、利用者負担額を算出しました



<距離制運賃による算出>

地区	実証実験運賃		距離制運賃		
	運賃 (時間制)	人・乗車 あたり負担額	実車運賃	人・乗車 あたり負担額	全て3人で 相乗りすると
柳沢地区	505,960	6,657	146,150	1,923	937
姥屋敷地区	505,960	20,238	77,060	3,082	1,117

柳沢地区は
短距離利用：多
距離制が有効

相乗り乗車で
大幅な負担減

<時間制運賃による算出>

地区	実証実験運賃		時間制運賃		
	運賃 (時間制)	人・乗車 あたり負担額	実車運賃	人・乗車 あたり負担額	全て3人で 相乗りすると
柳沢地区	505,960	6,657	161,200	2,121	1,033
姥屋敷地区	505,960	20,238	71,300	2,852	1,033

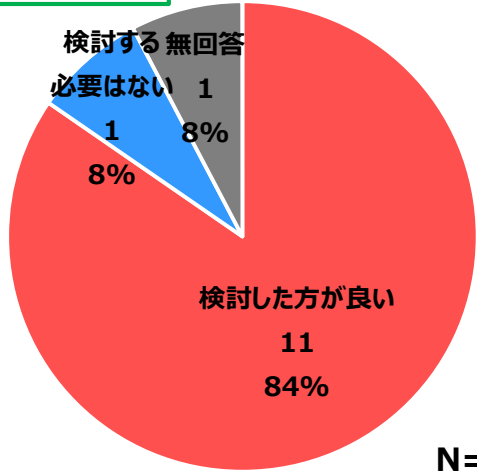
姥屋敷地区は
長距離利用：多
時間制が有効

→片道1,000円程度の負担で
移動可能

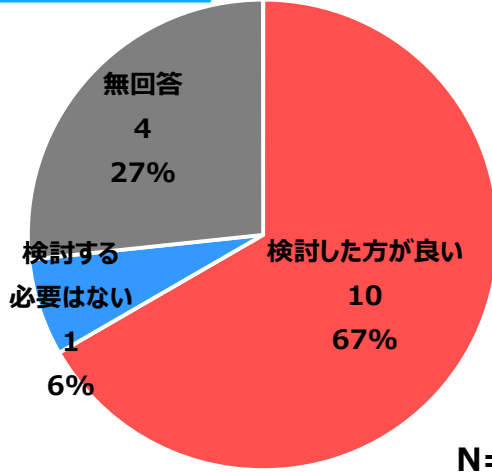
- ・ 実証実験終了後のアンケート調査では、移動サービスの必要性の高さが認識され、相乗りへの抵抗感が低く、自己負担や取り組み等に対する協力的な意見もある一方、行政頼りの意見も多く、現状で主体的な動きは確認できませんでした

地域の移動サービスの検討について

柳沢地区



姥屋敷地区

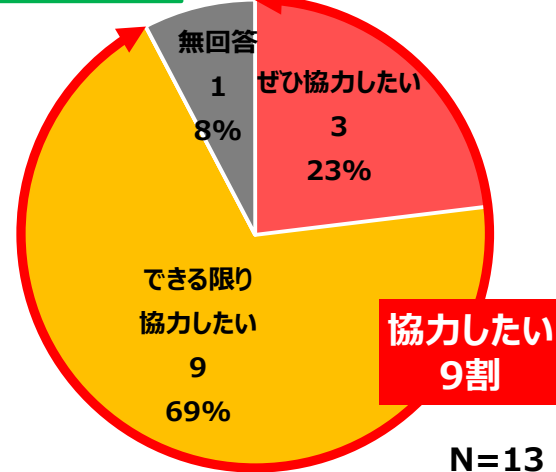


<関連する具体的な意見>

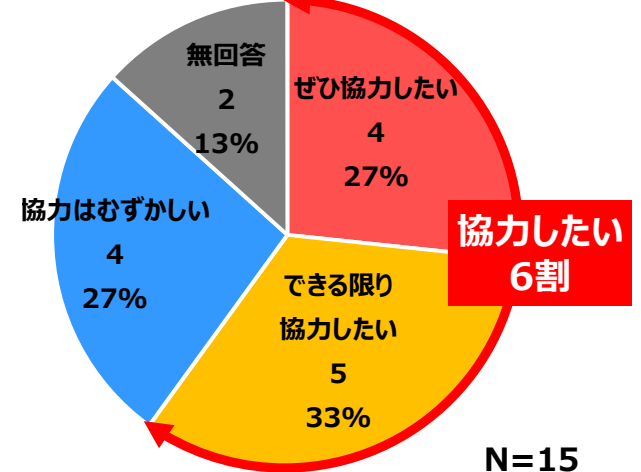
- ・ 自宅の前で乗れる交通手段があれば良い。(80代女性)
- ・ 用事や目的に合わせた、曜日縛りが無い交通手段が良い。(80代男性(お))
- ・ 高齢の方が増えているので、**地域として継続して考えていく課題**。(60代女性)
- ・ 相乗りについては**半数以上が「誰とでも良い」「同じ地区の住民なら良い」と回答**
- ・ **相乗り**に心理的な抵抗感はない、**相乗り**で買い物に行くこともある。(70代女性(お))

地域のたすけあいへの協力について

柳沢地区



姥屋敷地区



<関連する具体的な意見>

- ・ 適切な運賃や負担金等の**自己負担があっても良い**。(80代男性(お))
- ・ 移動時の**声掛けができるような近所付き合い**が必要。(70代女性(お))
- ・ 協力は必要だが、**責任は取れない。事業者**に委託すべき。(50代男性)
- ・ 若い人が老人を支援する仕組みは、やりすぎると良くない。(60代女性)
- ・ 今後も、**行政主体で便利な交通手段を運行して欲しい**。(70代男性(お))

<小需要地域における移動需要>

- ◆ 実証実験の利用者は、対象地区人口の2%にとどまり、その多くは高齢者
- ◆ 1日に最大でも8人と需要が小さく、実証実験での移動の半数は固定客によるもの

➡現状の利用者は少なくとも、

5年10年後には高齢化率も6割を超えることから、今から検討する必要があります

<小需要地域の移動効率化の可能性>

- ◆ 移動が集中する頻度や時間帯があることから、移動を効率化できる可能性あり
- ◆ 滝沢市役所・ビッグルーフ滝沢やマイヤ 滝沢店等に一定の需要あり、通院による移動は分散
- ◆ 平均稼働率が低く、配車までの空き時間や配車回送が大きな負担の可能性あり
- ◆ 運賃の試算では、相乗りすることで利用者負担額が大幅に低下

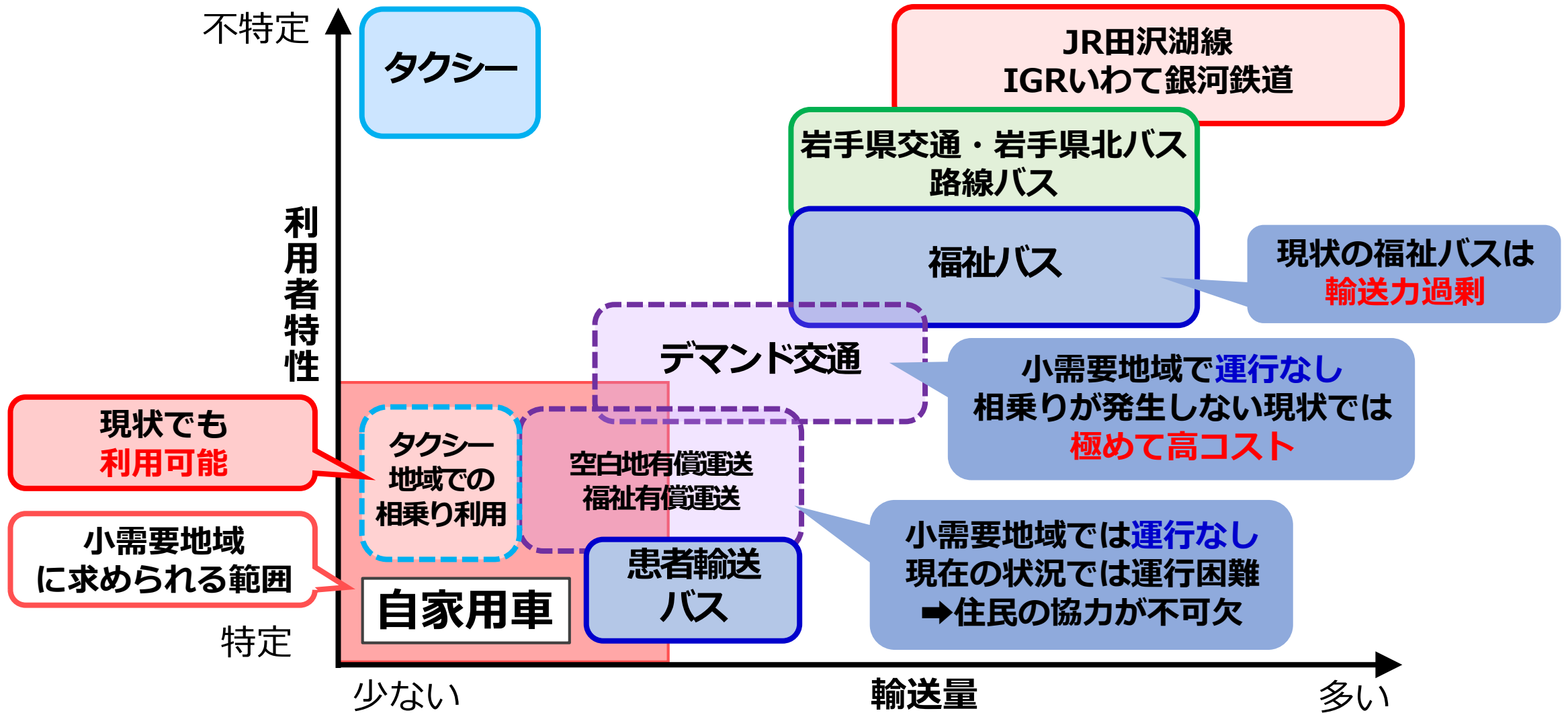
➡持続可能な交通サービスの維持には、地域も交通事業者と協力し効率化を進める必要があります

<交通サービスに対する地域の意向>

- ◆ 地域の交通サービスを求める声や求めるサービスへの意見に対し、利用実態と乖離
- ◆ 地域として相乗りには抵抗感が低く、運賃等の自己負担についても容認する意見あり
- ◆ 実証実験が地域のたすけあいのきっかけとなったが、現状では主体的な行動は確認されていない
(地域のたすけあいとして、具体的なやり方が分からない 等もひとつの要因)

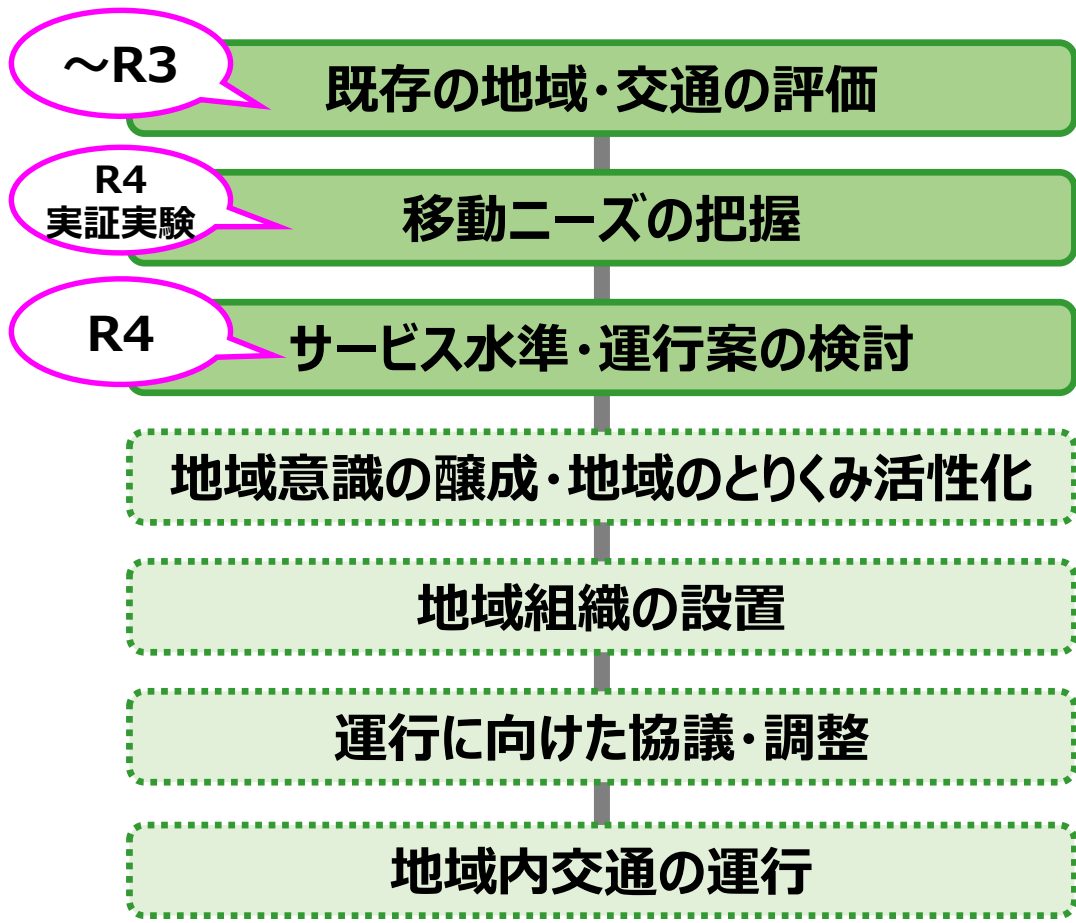
➡地域の求める交通手段の実現や継続には、地域の主体的な取り組みが必要です

・ 小需要地域には、**輸送量が小さく**・**利用者が特定**された交通手段が必要です

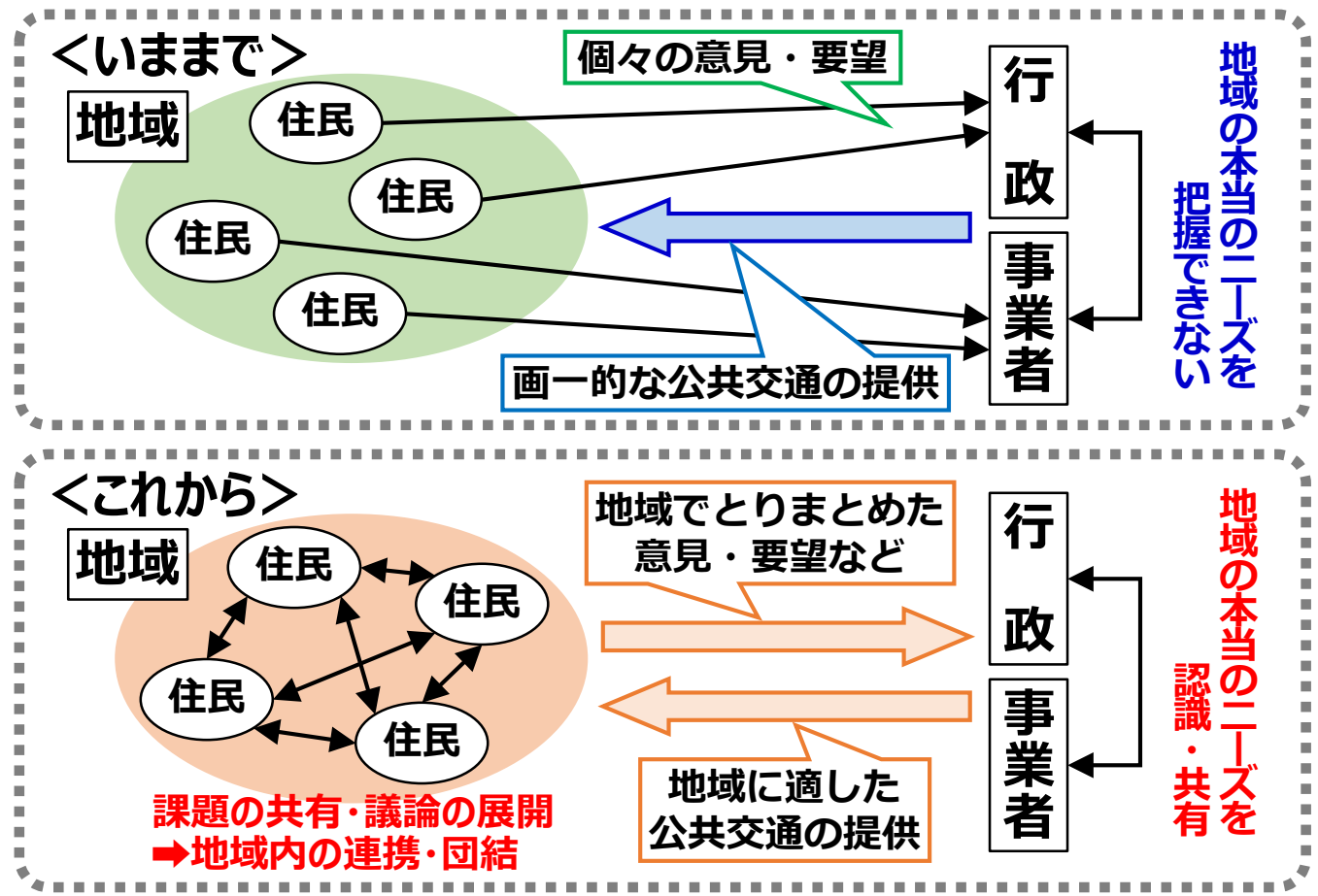


・地域の交通サービスの実現に向けて、既存の交通手段を活用するとともに、
「地域の主体的な取り組みに対する機運を高める」 ことに取り組みます

検討の流れ



地域での検討のイメージ



- ・ 実証実験を実施したタクシー事業者3社と協議し、**想定される運行案や今後の小需要地域の方針**についてご意見をいただきました

確認事項1 需要のとりまとめのきっかけづくりのため、小需要地域内での定期的な待機は可能か

- ・ (3社共通) 予約がない状態でタクシーを**待機させることは難しい**、確実に利用していただくには**予約をお願いしたい**

確認事項2 地域による需要のとりまとめへの意見

- ・ (3社共通) 地域で需要をとりまとめて**代表者が予約するような利用**は、現状の**タクシー事業として対応可能**
- ・ (みたけタクシー) 利用者同士で連絡を取り合って相乗りが促進されれば、**事業者としても効率化が図られる**
- ・ (滝沢交通) 地域単位ではなく、**グループ単位で連絡**を取り合い買い物等の移動を一緒に行うことが効果的である
- ・ (岩手中央タクシー) 地域で需要がとりまとめられていれば**運行しやすい**、ただし**割り勘で不公平感が無いように配慮すべき**

その他 小需要地域への対応や今後の方針

- ・ (みたけタクシー) 小需要地域からの予約であっても、**車両の空きがあれば配車を行う** (配車時間でお客様からキャンセル)
- ・ (滝沢交通) 空車の場合は**配車までそこまで時間がかからない**、**ドライバーは固定客を抱えており予約で埋まっている**
- ・ (岩手中央タクシー) **小需要地域であっても配車を断ることはない**、配車時間がかかることが配車拒否と捉えられている
地域に入り**新たな需要の掘り起こし**をしなければいけない、**利用者と事業者の意識の差も埋めていきたい**

- 地域の主体的な取り組みを推進した上で、需要のとりまとめによって利用者にも交通事業者にも**メリットがある交通手段**を目指します

地域の主体的な取り組みの推進

地域からタクシー事業者へ予約

相乗りや事前予約により
効率的な配車が可能
配車の遅延等を軽減

地区単位や普段からお出かけをする**グループ毎**に
需要のとりまとめ（相乗りの相談）を行い、
代表者が事前にタクシーの配車予約を行う
相乗りすることにより**1人当たりの運賃を軽減**
（割り勘により片道1,000円程度まで軽減）



【タクシー相乗りによる移動手段の確保の例】 横浜市旭区 タクシーを活用した実証実験

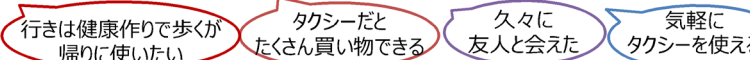
“相乗り”タクシーとは？



利用のシーンや効果 (イメージ)



体験乗車会 利用者の声



- 駅から距離や高低差がある地区を対象として、**相乗りによるタクシー利用**によって地域の移動手段を確保する取り組み
- 地域とタクシー事業者との協議に行政が調整役として参加
- 運賃は乗車人数によって割安になるように設定、予約可能な時間を30分単位で設定

【一般乗用旅客自動車運送事業のままで運行】

5年度の進め方

- ・ 令和5年度は、継続的に地域と協議を重ね、ワークショップや勉強会等を行い**地域の取り組みに繋がる技術的な支援**を実施します
- ・ 想定される運行案のようなタクシーの**上手な使い方を共有するとともに**、割り勘時のルール等について、意見交換を実施します
- ・ 交通モードが小さくなり、個人のニーズに近づくほど、**地域が主体的に関わる必要があること、地域の関係性づくりの必要性やその機運作り**をワークショップや勉強会を通して、継続的に話し合います
- ・ 新しい交通手段を望む声についても、地域が主体的な行動をとることで実現可能なものを中心に、**地域の取り組み状況を見ながら継続的に協議していきます**
(地域が主体的に運行計画等の策定や運営に関わる必要があることを説明します)
- ・ 他の小需要地域に展開できるように、柳沢・姥屋敷地区をモデルとした検討を進めます

以上のような、**地域の主体的な取り組みに繋がる技術的な支援等**を行います

いわて未来づくり機構

分野間連携による農林水産業振興作業部会の実績報告・活動計画

テーマ： 分野間連携による地域の持続可能な農林水産業の振興

座長： 水野 雅裕

担当団体：岩手大学

報告要旨

令和3年に農林水産省から公表された「みどりの食料システム戦略」を受け、岩手の農業を持続可能なものとすることを目指して、工学や社会学的知見も取り入れたビジョン骨子案の作成準備を進めた。取りまとめた案を、昨年8月、科学技術振興機構「共創の場形成プログラム（地域共創分野・育成型）」に、「東北から発信する里山型の持続可能な食料生産モデル創造拠点」と題し、申請したが不採択になった。不採択通知には、シーズ指向が強く、地域の課題を踏まえた地域ビジョンに基づくバックキャストの視点に立っていないとの指摘があった。この結果を受け、検討チームに岩手県の農林水産担当者やいわてアグリフロンティアスクール講師などを加え、広く県内のニーズの把握に努めると共に、岩手大学等の研究者への個別ヒアリングを進めた。その結果、農業と畜産が有機的に連携した耕畜連携を軸にした「共創の場」を形成することが岩手らしい取組みになると考え、令和5年度はその構想を深堀することにした。

1 令和4年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

作業部会としては開催出来ず。

2 令和4年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

令和4年度活動計画	令和4年度活動状況・成果・課題
地域の未来ビジョンの骨子を策定するとともに、解決すべき課題、産学官が有する技術、農林水産業の特徴の抽出を行い、ターゲット仮説を設定する。	関係者間で議論を進めた結果、解決すべき課題として、岩手県では特に家畜飼料の高騰や獣医不足による畜産農家の経営環境の悪化が挙げられた。岩手大学では「畜産飼料総合教育研究センター」の設置に向けて準備を進めているところであるが、そこで実施する特色ある研究や、理工学部で行われているパルスパワーによる植物・水産物の革新的機能性制御とその学理深化など、学が有する特徴的な技術を課題解決に向けて展開していくこととした。

3 令和5年度の活動方針・予定

岩手ならではの、家畜飼料の研究や、パルスパワーを活用した植物の機能制御技術の研究、次世代アグリイノベーション研究センターなどの取り組みを軸に、いわてアグリフロンティアスクールの卒業生達へのアンケート調査、および対話・ワークショップの開催を進め、未来ビジョン骨子の改定案を作成する。作業部会でのディスカッションにより仮説の検討およびブラッシュアップを行う。なお、骨子改定案を基に、科学技術振興機構「共創の場形成プログラム（地域共創分野・育成型）」への申請を予定している。

いわて未来づくり機構 会員名簿

令和5年5月12日現在

NO	会員名
1	一般社団法人岩手経済同友会
2	岩手県商工会議所連合会
3	岩手県商工会連合会
4	岩手県中小企業団体中央会
5	一般社団法人岩手県工業クラブ
6	花巻工業クラブ
7	北上工業クラブ
8	両磐インダストリアルプラザ
9	テクノプラザ岩手
10	岩手県中小企業家同友会
11	一般財団法人岩手経済研究所
12	公益財団法人岩手県観光協会
13	日本貿易振興機構(JETRO)盛岡貿易情報センター
14	公益財団法人いわて産業振興センター
15	一般社団法人ビジネスサポート花巻
16	株式会社北上オフィスプラザ
17	公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター
18	北上ネットワーク・フォーラム(K.N.F)
19	宮古・下閉伊モノづくりネットワーク
20	岩手県農業協同組合中央会
21	全国農業協同組合連合会岩手県本部
22	国立大学法人岩手大学
23	公立大学法人岩手県立大学
24	岩手医科大学
25	盛岡大学
26	富士大学
27	北里大学海洋生命科学部
28	一関工業高等専門学校
29	放送大学岩手学習センター
30	東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター
31	岩手県
32	岩手県市長会
33	岩手県町村会
34	公益財団法人岩手生物工学研究センター
35	(地独)岩手県工業技術センター
36	公益財団法人岩手県南技術研究センター
37	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター
38	一般社団法人 岩手県銀行協会
39	岩手県信用保証協会
40	株式会社岩手銀行

NO	会員名
41	岩手県信用金庫協会
42	株式会社日本政策投資銀行東北支店
43	株式会社商工組合中央金庫 盛岡支店
44	日本政策金融公庫盛岡支店 国民生活事業
45	岩手ネットワークシステム(INS)
46	岩手農林研究協議会(AFR)
47	公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会
48	一般社団法人岩手県医師会
49	一般社団法人岩手県歯科医師会
50	岩手県社会福祉協議会
51	一般社団法人岩手県宅地建物取引業協会
52	パシフィックコンサルタンツ株式会社 盛岡事務所
53	日本政策金融公庫 盛岡支店 中小企業事業
54	(株)日本政策金融公庫 盛岡支店 農林水産事業
55	いわぎん事業創造キャピタル株式会社
56	岩手保健医療大学
57	公益財団法人いきいき岩手支援財団
58	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 岩手支店
59	損害保険ジャパン株式会社
60	東京海上日動火災保険株式会社

いわて未来づくり機構 会則

(名称)

第1 本組織は、「いわて未来づくり機構（以下「機構」という。）」という。

(目的)

第2 機構は、岩手県内で活動する組織が智慧と行動力を結集するためのネットワークを構築し、岩手県の地域社会の総合的な発展に向けて県民力を挙げオール岩手で取り組み、具体的に実践していくことを目的とする。

(構成)

第3 機構は、第2の設置目的に賛同し、事務局に入会の意思を表示した岩手県内で活動する組織（以下「会員」という。）をもって構成する。

(活動事項)

第4 機構は、第2の目的を達成するために次の活動を行う。

- (1) 岩手県の地域社会の総合的な発展に資する方策の検討及び実践
- (2) (1)に係る情報発信
- (3) 会員相互及びラウンドテーブルと会員の意見交換及び情報共有
- (4) (1)～(3)を行うためのネットワークづくり
- (5) その他、機構の目的を達成するために必要な事項の検討及び実践

(ラウンドテーブル)

第5 機構にラウンドテーブルを置く。

- 2 ラウンドテーブルメンバーの変更は、ラウンドテーブルメンバーの過半数の承認を得て行う。
- 3 ラウンドテーブルは、共同代表が必要と認めたとき開催する。
- 4 ラウンドテーブルは、岩手県の地域社会の総合的な発展のために克服すべき重要な課題について意見を交換し、提言を行う。
- 5 必要に応じ、学識経験者等にラウンドテーブルへの出席を求めることができる。

(共同代表)

第6 機構に共同代表を若干名置く。

- 2 共同代表は、ラウンドテーブルメンバーの中から互選する。
- 3 共同代表は、それぞれが機構を代表し、機構の業務を統括する。
- 4 共同代表の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(総会)

第7 総会は、共同代表が招集する。

- 2 総会の議長は、共同代表が務める。
- 3 総会は、次の事項を議決する。
 - (1) 事業計画の決定及び変更
 - (2) 事業報告の承認
 - (3) 会則の制定及び改正
 - (4) その他必要と認められる事項

(企画委員会)

第8 機構に、活動の企画・調整を担う企画委員会を置く。

- 2 企画委員会は、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。
- 3 企画委員会に委員長を置く。
- 4 委員長は、企画委員の中から互選する。
- 5 企画委員会の運営については、別に定める。

(アドバイザーボード)

第9 機構に、特定の課題に対し提言を行うアドバイザーボードを置くことができる。

- 2 アドバイザーボードの設置及び廃止は、ラウンドテーブルで決定する。
- 3 アドバイザーボードは、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。
- 4 アドバイザーボードの運営については、別に定める。

(作業部会)

第10 機構に、特定の課題に関する連携・協働の方針の策定、協働事業の企画立案及び協働事業の実践並びに必要な調査研究等を行うため、作業部会を置くことができる。

- 2 作業部会の設置及び廃止は、ラウンドテーブルで決定する。
- 3 作業部会は、ラウンドテーブルメンバーが指名する者をもって構成する。
- 4 作業部会の運営については、別に定める。

(会費)

第11 機構の会費は、無料とする。ただし、一部事業の実施に伴い、参加負担金等を徴収することができる。

(事務局)

第12 機構の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、ラウンドテーブルメンバーが協力して運営する。

(その他)

第13 この会則に定めるもののほか、機構の運営に関し、必要な事項は、共同代表が別に定める。

附則 この会則は、平成20年4月24日から施行する。

附則 この会則は、平成22年5月25日から施行する。

附則 この会則は、平成23年7月19日から施行する。

附則 この会則は、令和元年7月8日から施行する。